奈良県に遺された４体の「青い目の人形」

―渋沢栄一とギューリック博士が試みた日米親善―

戦時下における奈良県の人々とその暮らし

―心に刻むべき歴史（１）―

帝塚山大学同窓会

第５回「学生チャレンジ制度」

成果物

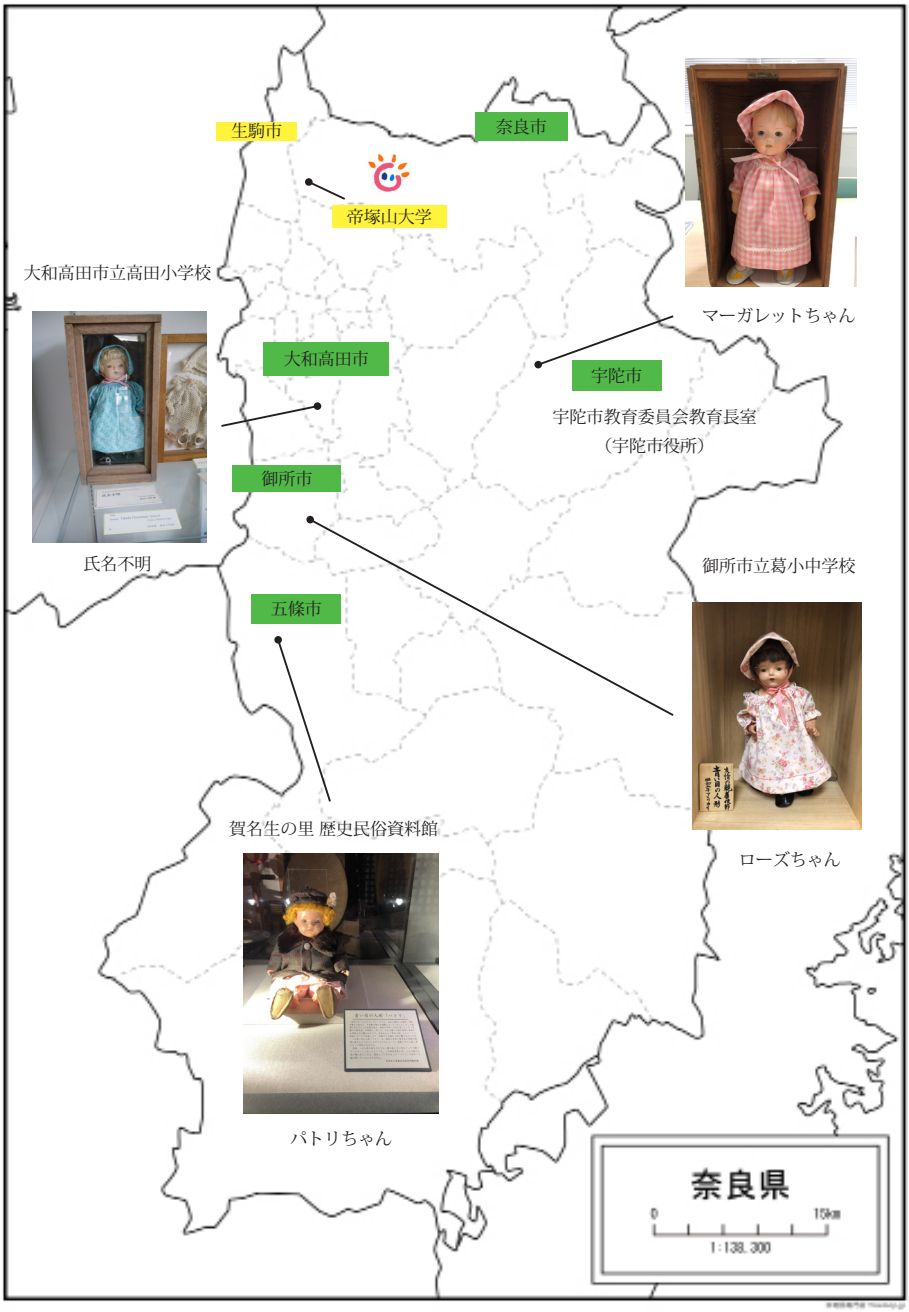
帝塚山大学法学部　国際法・平和学ゼミ（2020 年度）

目　次

地図
なぜ戦時下における奈良県の人々とその暮らしを調査するのか……　3
（１）奈良県に遺された４体の「青い目の人形」……　5
（２）なぜ「青い目の人形」が贈られたのか ……　16
（３）答礼人形のその後 ……　29
（４）ノーベル平和賞候補となった渋沢栄一とその思想 ……　46
（５）その後の人形交換プログラム ……　54
国際法・平和学ゼミ指導教員より　末吉　洋文……　64
参考文献
編集後記

※本冊子で使用されている全ての写真は関係各所からの許諾を得ています。

奈良県に遺された「青い目の人形」 分布 MAP



なぜ戦時下における奈良県の人々とその暮らしを調査するのか

1945 年 8 月 15 日に終戦を迎えてから 2020 年で 75 年が経ちました。帝塚山大学法学部の国際法・平和学ゼミでは、前年度は奈良県内の戦争遺跡を調査し、小冊子『奈良県の戦争遺跡―忘れてはいけない歴史―』としてまとめ、図書館リポジトリに登録、無料でダウンロード可能にしたことで、多くの方に奈良県の戦争遺跡について知って頂けたことと思います。また、戦禍の爪跡が小さいと思われていた奈良県における戦争の話は意外性があったためか、新聞各紙にも掲載して頂きました[1]。

私たち日本人は、かつて昭和という時代においてアジア・太平洋戦争を経験しました。しかし、平成、そして令和の時代となってからは幸いにも日本において戦争は行われていません。戦争が無いこと自体は非常に有難いことです。しかし、時間の経過とともに戦争体験者は減り、戦争をしてはいけないという意志が失われていくような気がしてなりません。

ゼミに所属する 3 年生は、全員が平成生まれで、戦争を全く経験したことが無く、これまでの人生を平和に過ごすことができてきました。それは、今までの戦時下の経験があってこそ現在の平和な社会が成立しているのだと思います。したがって、戦時下で奈良県の人々がどのような環境で暮らしていたかを調べることによって、今の平和が成り立っていることを実感し、またそのことを忘れないようにしていかなければなりません。今の時代を生きる私たちにできることは、戦禍を忘れず、そして戦争体験者の話を継承していくことであり、それが重要な役目なのだと思います。

2020 年は新型コロナウイルスの影響などもあり実際に関係のある場所を訪れて調べたりすることが難しいご時世ではありましたが、ゼミに所属する 3 年生は各自のテーマに調査する対象を絞り、最大限にできる努力を行い、少しでも多くの人に戦争のことを知ってもらいたいと考えました。なかなか情報がない中、文献やインターネットを頼りに調べました。ゼミ

1　朝日新聞「奈良）県内の戦争遺跡知って　帝塚山大が冊子公開」（2020 年 8 月 11 日）、奈良新聞「県内にも残る「戦禍」の爪痕 - 帝塚山大生が調査　報告書を一般公開」（2020 年 8 月 13 日）、讀賣新聞「戦争遺跡　帝塚山大生ら調査　県内 10 か所　HP で紹介」（2020 年 8 月 18 日）、産経新聞「県内の戦争遺跡を調査　帝塚山大生の報告書公開」（2020 年 9 月 17 日）。

では課題として各自受け持ちのテーマについてレポートを作成したり、研究発表を重ねながら内容をブラッシュアップしてきました。その結果、普段はあまり学ぶ機会のない奈良県下の戦時下における暮らし、すなわち銃後について知ることができました。総じてテーマは戦時下における食や女性と子ども、新聞報道、エネルギー、法律、娯楽など様々な 10 のテーマがありますが、今回は「青い目の人形」についてお届けし、その他のテーマについては更に研究を深め、将来的に発信したいと思います。

この冊子に書かれている事は遠くない昔、実際に奈良県で起きた出来事です。今回は「青い目の人形」をテーマとすることで戦時下における奈良県の人々とその暮らし、特に渋沢栄一とギューリック博士によって日米親善が図られ、戦禍を食い止めようという試みが行われたこと、子どもたちが戦争のために利用された点、そして「青い目の人形」が今なお平和教育にとって重要な意味と可能性を持っている点などに興味を持ってもらえればと思います。この点、ゼミ生によって「青い目の人形」をテーマとする平和教育の提案も行っていますので、ご覧の上、教育現場などで実施して頂ければと存じます。

平和学習と言えば、広島や長崎に目が行きがちですが、奈良県にも戦争の爪痕や記憶が残されていることも知って頂ければと存じますし、戦争についての情報が時の経過と共に少なくなっている中で少しでも関心を持つ人が増えれば幸いです。

2021 年 7 月

帝塚山大学法学部

国際法・平和学ゼミ

※なお、本成果物でいう「戦時下」とは、第一次世界大戦が開始された 1914 年 7 月以降の事として広く捉えたいと思います。

※年号については西暦と和暦を併記するよう、そして漢数字は読み易さのためアラビア数字に改めている部分があります。

※表紙の「青い目の人形」を抱えた渋沢栄一氏の写真の使用については著作権に関し、公益財団法人渋沢栄一記念財団に確認し、許諾を得ました。（出典：公益財団法人渋沢栄一記念財団 HP　https://www.shibusawa.or.jp/museum/newsletter/302.html）

（1）奈良県に遺された4体の「青い目の人形」

奈良県の人々の記憶にどれだけ遺っているかは定かではないが、「青い目の人形」もまた戦禍を生き抜いた。「青い目の人形」は奈良県内の様々な資料にそう多くは登場しない話だが、是非とも書き留めておくべきであろう。西田敦氏によれば、「青い目の人形」もまた「戦争遺跡」なのである[2]。

私たち国際法・平和学ゼミでは前年度、『奈良県の戦争遺跡』を調査した時に、榛原駅高架下の機銃掃射痕に関して宇陀市の広報誌「広報　うだ」第104号（2014年8月）の特集「平和の尊さを次世代に ～榛原空襲・青い目の人形～」という資料を発見していた。同紙によれば、以下のような記述がある[3]。

日米親善の象徴「青い目の人形」

1927（昭和2）年、アメリカ人宣教師シドニー・ルイス・ギューリック博士（※）が「人形を通して日本の子どもたちと交流を図ろう」と呼びかけ、全米各地から寄せられた12,739体の人形が、日本全国の幼稚園・小学校に贈られ歓迎されました。奈良県には144体が贈られたそうです。この人形は「青い目の人形」と呼ばれ、手縫いの洋服を着て、パスポートや日本の子どもたちへの手紙、着替えなども持っていて、3月のひな祭りの日に贈られてきました。

日本からこの人形のお返しとして、日本児童親善会が主となり、小学校の女生徒から一人一銭ずつの募金を集めて「答礼人形」と呼ばれる市松人形58体を同年のクリスマスに間に合うようにアメリカ各州に贈られました。

ところが間もない1941（昭和16）年に太平洋戦争が始まり、日米親善のための人形も敵方の人形としてほとんどが焼却されるなど悲しい運命をたどりました。戦争という状況の中、「人形には罪がない」と処分をしのびなく思い隠した人形が、戦後、学校などで発見されました。現存する人形は約300体、県内には4体が残っています。日米親善と平和を語る資料として大切に保存されています。

人形をとおして、戦争の悲しさ、平和の尊さを感じてもらえればと思います。

※ギューリック博士は、20年以上も教師として日本に住んでおられた方で、明治から

2　讀賣新聞「［古都の記憶・戦後７０年］（９）戦争遺跡『発掘』」（大阪、2015年8月20日）。
3　「広報　うだ」第104号（2014年8月）。＜https://www.city.uda.nara.jp/kouhoujouhou/shisei/kouhou/kouhou/2014/documents/2608zen.pdf＞（最終アクセス日時：2021年7月6日）。

大正にかけて日本とアメリカの関係が悪くなっていくことを心配して、この人形を贈られました。

この広報紙をきっかけとして研究・調査を開始した[4]。

「広報　うだ」第 104 号（2014 年 8 月）

「広報誌　やまとたかだ」（平成 20 年 6 月）

米国から奈良県に贈られた「青い目の人形」は 144 体であったという記録がある[5]。「青い目の人形」研究の第一人者である故・武田英子氏の著書『青い目をしたお人形は』によれば、奈良県内には奈良吉野郡西吉野町の賀名生小学校、大和高田市大仲の高田小学校、そして御所市戸毛の戸毛小学校 3 体の人形しか遺されていないということになっているが[6]、上に引用したように、宇陀市の広報紙によれば、戦禍を生き遺り、県内に現

4 「青い目の人形」については、平成 20 年 6 月発行の「広報誌やまとたかだ」にも掲載されている。＜ https://www.city.yamatotakada.nara.jp/city/rekishi/docs/aoimedoll.pdf ＞（最終アクセス日時：2021 年 7 月 6 日）。

5 『目で見る奈良市の 100 年 : 奈良市・添上郡月ケ瀬村』には写真が掲載されている。キャプションに「奈良に着いた『青い目の人形』はさっそく奈良図書館の階上に陳列されたが、これをみようと市内各小学校の児童が 1000 人ほど詰めかけた。結局、奈良に贈られた人形は 144 体であったという。アメリカへ答礼人形が贈られることになり、全国から 58 体の日本人形が集められたが、奈良からは奈良人形『ミス奈良子』と二頭の鹿がネバダ州リーノ市に贈られた。」と書かれてある。『目で見る奈良市の 100 年 : 奈良市・添上郡月ケ瀬村』（郷土出版社、1993 年）、76 頁。

6 武田英子『青い目をしたお人形は』（太平出版社、1981 年）、241 頁。

存している人形は 4 体あるとされる[7]。御所市の葛小学校校長室に保存されているローズちゃん[8]、五條市の賀名生（あのう）の里歴史民俗資料館で展示されてパトリちゃん[9]、現在、大和高田市の高田小学校で保存されている名前が不明の「青い目の人形[10]」、そして宇陀市内の旧伊那佐小学校[11]の物置から人形が発見された後、校長室で大切に保存され、「マーガレット」と名付けられた「青い目の人形」である[12]。

人形来日の頃の情報によると、1927 年（昭和 2 年）2 月 4 日第 1 陣の人形 600 体が神戸港到着、奈良への配付では、まず 60 体が送られた。「県

7　その他、今回の研究調査によれば、滋賀県に 4 体、埼玉県に 12 体、千葉県に 11 体など、「青い目の人形」が残された数は都道府県によって様々である。なお、平和学習の余地を残すため、敢えて本冊子には詳細なデータを掲載しておりません。

8　ローズちゃんに関しては、2001 年 1 月 24 日に奈良新聞社会部長の北岡和之氏による講演が葛小学校で行われたという記事がある。讀賣新聞「ＮＩＥ教育に新聞を　奈良新聞社会部長が御所・葛小で講演」（大阪、2001 年 1 月 25 日）、27 頁。

9　パトリちゃんについては、2017 年 8 月 11 日から 10 月 15 日まで五條市西吉野町の「賀名生（あのう）の里歴史民俗資料館」において「青い目の人形パトリが見た戦争と賀名生（あのう）」と題し、人形と、戦時中の写真や新聞記事、はがきなど約 30 点を展示する、寄贈から 90 年の節目に合わせた企画展が開催された記録がある。讀賣新聞「青い目の人形　平和へ思い　米寄贈 90 年　友好の証し　戦時中、隠し保管」（大阪、2017 年 8 月 10 日）、26 頁。また、最初にパトリちゃんを抱いたという同市西吉野町和田の辻内千重子さん（95）が小学 6 年生時を回想し、『人形のひとり云（ごと）―ママほんとうに御免（ごめん）なさい』（賀名生の里歴史民俗資料館、2011 年）が出版された。当時の辻井満三校長はパトリちゃんを学校の炭小屋の奥深くに隠し、1954 年に発見されたという。朝日新聞「お人形は守られた　９５歳女性が小説出版　『青い目の人形』が主人公」（2011 年 04 月 07 日）。同書は、人形がどのようにして守られ、遺されたかを知る上で貴重であると同時に、人形の一人称としてストーリーが展開されている点においても興味深い。

10　2018 年（平成 30 年）3 月 18 日には、大和高田市立高田小学校元同小校長の中尾勝一さん（78）が市中央公民館であった市民講座での講演を行い、「世の流れに逆らって人形を守った人々の存在を知り、人形が贈られた原点にある平和への思いを改めて考えていきたい」とコメントしている。朝日新聞「『青い目の人形』､友好の歴史紹介　高田小元校長」（2018 年 3 月 19 日）。

11　伊那佐小学校は 2006 年（平成 18 年）に大王小学校と統合され、宇陀市立榛原西小学校が開校されたのを機に現在は、宇陀市の教育長室で保管されている。

12　冊子「『青い目の人形』の声が聞こえる」を執筆した香芝市の鈴木知英子さんによれば、県内では、宇陀市の小（2010 年 3 月廃校）や、香芝市の志都美、五位堂両小にも届いたという。讀賣新聞「青い目の人形　歴史を冊子に　香芝の主婦・鈴木さん」（大阪、2014 年 5 月 12 日）、29 頁。

立図書館」で3月3日から53日間展示公開され、6,000人の入場者がつめかけたという[13]。また、1927年（昭和2年）4月8日の大阪朝日新聞（大和版）は「特に奈良へとの　希望の手紙を抱いて　アメリカのお人形さん豫定よりも廿三人多く來た」という見出しの下、「青い目の人形」の「後●部隊七十五人は七日朝懸へ到着した、最初の豫定よりも二十三人多くなつてゐるがこれはとくに奈良へ行きたいといふ本人の希望を認めた手紙によつて便宜の取扱ひをうけたもので懸では再び陳列會を開くかどうか考慮中である、奈良、郡山、高田地方の小学校幼稚園へ配布するのは本月末の豫定であると」（●は判読不能、「豫定」は「予定」のことである。）と報じている[14]。

1927年（昭和2年）3月3日の大阪朝日新聞（大和版）によれば、「米國のお人形　先發隊來る　けふから圖書館に陳列」と題し、「日本の子どもに逢ひたさにアメリカから來た青い目の人形たちのうち百二十人だけが奈良懸へ來ることになりさしあたり先発隊六十人が二日朝大阪までむかひに行つた懸学務課平岡さんに連れられて奈良入りをした、ちょうど三日は雛祭りになるのでその日から五日まで奈良図書館楼上に陳されてみんなのお目見えをすることとなつた、かうした人形たちで●●●つてから市内の各小学校、幼稚園や市につく町のそれらのところへ配付するはずだがその方法は目下考究中で学級数にでも●（おう）じて決定しようかと相談してゐる。」とある[15]。このように、日本に到着した「青い目の人形」は、まず県立図書館で展覧会が開催され、多くの来場者を集めた[16]。その盛況ぶりは、1927年（昭和2年）3月4日の大阪朝日新聞が「可愛い人形　陳列會始まる　児童たちで大入満員」と報じ、翌日の同紙は、「お人形展　けふ限り」と題し、3月「三日は幼稚園から小学校の団体が2,300人その

13　武田英子『青い目の人形　写真資料集』（山口書店、1985年）、198頁。

14　大阪朝日新聞（大和版）「特に奈良へとの　希望の手紙を抱いて　アメリカのお人形さん豫定よりも廿三人多く來た」（1927年4月8日）。

15　大阪朝日新聞（大和版）「米國のお人形　先發隊來る　けふから圖書館に陳列」（1927年3月3日）。

16　現在の奈良県立図書情報館の前身である奈良県立図書館は、1908年に奈良県立戦捷紀念図書館として、奈良公園内に竣工し、翌年に開館、1923年に奈良県立奈良図書館に改称した。

ほかの人●とで約三千人に達し、4日も正午過ぎまでに二千●（よ）人の観覧者があり『押すな押すなの盛況である』」と伝えている[17]。

奈良県に来た「青い目の人形」は、抽選によって県下の各学校に配布された。1927年（昭和2年）5月15日の大阪朝日新聞（大和版）によれば、「アメリカ人形　抽籤で分配　十八、十九両日間に　小學校や幼稚園へ行く」という見出しの下、先着しているアメリカから来た青い目の人形112体に加えて、「とくに奈良懸へ行きたいという希望を持つ」32体の合計144体の配分について、「懸でもいろいろ頭をなやました結果公私幼稚園は大小をとはず懸下全部十一ケ所に一個づゝとし小學校は七学級以上のところ百三十一校と男女旧師範附属小學校へ配當することゝなり十八日懸●で添上、山辺、生駒、磯城、宇陀、奈良の一市五郡へ、十九日高田高等女学校で北葛、南葛、宇智、吉野、高市の四郡へ分配する、人形には甲乙あり持参金をポケツトに忍ばせてゐるものや着換をたくさん持つてゐるものもあり着のみ着のまゝのかあいそうなのもあるので公平を期するため全部抽籤で決定するはずである、懸の希望としては旅行免状、手紙、着物などは紛失せぬやう注意をして貰ひ學校に陳列して雛祭りなどに飾つてほしい、なほ●米國への感謝の意を表するための●●、●●、風景絵ハガキの類を寄贈するやう取りはかられたいといつてゐる」とある[18]。

17　大阪朝日新聞（大和版）「お人形展　けふ限り」（1927年3月5日）。

18　大阪朝日新聞（大和版）「アメリカ人形　抽籤で分配　十八、十九両日間に　小學校や幼稚園へ行く」（1927年5月15日）。

葛小学校『青い目の人形』

葛小学校は、戸毛小学校と朝町小学校が合併してできました。青い目の人形は、戸毛小学校　高木校長先生が、高田高等女学校におもむき、アメリカ人形をいただきました。そして、7月２８日に戸毛小学校で、アメリカ人形歓迎会として音楽会が開催されています。

第２次世界大戦では、敵国の人形として、処分されかけたようですか、当時の子どもたちが自分の家に持ち帰り、人形を秘密のうちに守ったようです。第２次世界大戦が終わってから、また学校に帰ってきました。

昭和５７年に、戸毛小学校と朝町小学校が合併して、葛小学校となりました。青い目の人形はそのまま引き継がれ、校長室で保存しています。引き継がれたときにはパスポートがなく、名前が分かりませんでした。しかし、昭和２年度の卒業生が書いた作文の中に、「アメリカから親善大使として送られてきた、かわいらしいローズちゃん。みんなで喜んでお迎えしたあの人形はどうなったのでしょう。」と記されていて、名前が分かりました。

御所市葛小中学校校長室にあるローズちゃん（2021 年 4 月撮影）と
頂いた資料（箱の上にある説明文）

武田英子『青い目の人形　写真資料集』によれば、以下のような説明がされている。

ローズちゃんは、当初市内戸毛の戸毛（とうげ）小学校に配付されたが、昭和 57 年に戸毛校は朝町校と合併して葛小学校となり、人形はそのまま引きつがれ、校長室に保存された。前校長の辰己義嗣さんから人形のことを聞き、東浦寛校長はおりおりの朝会に、「友情の人形」であることを話している。

障害児学級では手作りの人形を飾ってひな祭をするので、このときにも人形のことを伝えているが、特に人形を持ち出していっしょに飾ることはしていない。

だいぶ老化して、人形が傷んでいるため大事に保存している[19]。

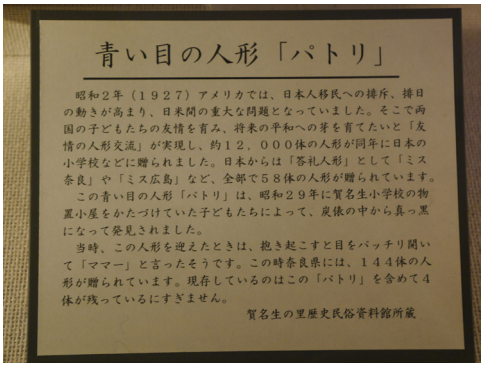
19　武田英子『前掲書』（注 13）、199 頁。

宇陀市教育委員会教育長室に置かれているマーガレットちゃん（2021 年 4 月撮影）
※当日は会議室にて撮影させて頂いた

人形の横の説明板を見ると、以下のような文章が書かれてある。

木箱に保管され、側面に「昭和３年６月あめりか人形」との明記。当時の証言によると、舶来の人形が来るということでたくさんの人が集まり歓迎会を行い、「人形を迎える歌」を歌ったようだ。昭和 57 年倉庫で発見された。旧伊那佐小学校で発見

武田英子『青い目の人形　写真資料集』のデータによると、奈良県に遺された「青い目の人形」は３体となっており、現在、宇陀市教育委員会教育室長に保管されてあるマーガレットちゃんが同書の刊行時点（昭和 60 年）では発見されていたものの、本には収録できなかったことが伺える。



青い目の人形「パトリ」

昭和２年（１９２７）アメリカでは、日本人移民への排斥、排日の動きが高まり、日米間の重大な問題となっていました。そこで両国の子どもたちの友情を育み、将来の平和への芽を育てたいと「友情の人形交流」が実現し、約１２，０００体の人形が同年に日本の小学校などに贈られました。日本からは「答礼人形」として「ミス奈良」や「ミス広島」など、全部で５８体の人形が贈られています。

この青い目の人形「パトリ」は、昭和２９年に賀名生小学校の物置小屋をかたづけていた子どもたちによって、炭俵の中から真っ黒になって発見されました。

当時、この人形を迎えたときは、抱き起こすと目をパッチリ開いて「ママー」と言ったそうです。この時奈良県には、１４４体の人形が贈られています。現存しているのはこの「パトリ」を含めて４体が残っているにすぎません。

賀名生の里歴史民俗資料館所蔵

五條市の賀名生（あのう）の里歴史民俗資料館　パトリちゃん（右）（2021 年 1 月撮影）

同じく、武田英子『青い目の人形　写真資料集』によれば、以下のような説明がされている。

関心の的の人形を学校に迎えたときのことを、当時 6 年生だった辻内千恵子さんは、次のように述べている。それは早春の椿が咲いている夕陽の美しい校庭でした。校長先生がパトリを抱かせて下さいました。かわいらしかったのでよくおぼえています。すばらしい洋装のパトリは、香水ビンをいくつも持参して、少女たちの目を見張らせた。校長職員室に飾られ、人形は賀名生小学校の一員になった。そのパトリが再び人びとの前に登場したのは、昭和 29 年のことだった。PTA 役員の辻内千恵子さんが、校内倉庫を片づけていたとき見つけ出した。少女のとき抱いたことのあるパトリに再会し、辻内さ

んは涙が出るほどうれしかったという。すっかり傷んでいた服を、辻内さんは手作りの衣裳に着せ替えてやった[20]。（以下省略）

当時は校長室に保存されていたというが、現在は上記のとおり、五條市の賀名生（あのう）の里歴史民俗資料館で展示されている。

高田小学校に遺された青い目の人形（玄関に展示）（2021 年 4 月撮影）

これも武田英子『青い目の人形　写真資料集』を開いてみれば、以下のような説明がされている。

昭和 2 年に人形を迎えた時、同校の前身の高田女子尋常高等小学校で、人形の伝達式を行い、同校の池田米太郎校長から、北葛城郡下の小学校や幼稚園の女教諭に手わたした。そのおりの写真がいまも保存されている。当時 3 年生だった淡野イトさんは、「朝礼で全校児童の前に、校長先生が人形を高くさし上げて見せ、人形を皆で大事にして、外国の人たちとも仲よくしていきましょうと話されました」と、思い出を語っている。昭和 15 年当時校長だった中家元信さんが、処分するにしのびず、校長室に保存したとのことである。昭和 49 年の創立百周年のおりの資料展示に、人形も公開し、昭和 58 年の百十周年記念にも、人形を児童に紹介した。現在は校長室に保存してある[21]。

20　武田英子『前掲書』（注 13）、198 頁。
21　武田英子『前掲書』（注 13）、199 頁。

上記の文章中に出てくる「人形の伝達式」については、武田英子『青い目の人形　写真資料集』巻頭のｖ頁の右上に、「奈良・高田小学校保存」というキャプションで１枚の白黒写真が掲載されている[22]。前頁に続いて「ようこそ青い目の人形さん」というタイトルの下、歓迎式典の様子が紹介されているのだが、この写真を見たところ、成人男女計 23 名が２列に並んで各々人形を抱きかかえている。教室には飾り付けがしてあり、後ろには「WELCOME DOLL MESSAGE」と書かれてある。おそらく児童ではなく教員なのであろう。この「伝達式」については、当時の様子を報じる新聞をデータベースで発見することができた。1927 年（昭和２年）５月 24 日の大阪朝日新聞（大和版）によれば、「高田の児童らに可愛がられる青い目のお人形さん」の見出しの下、八木町晩成小学校（現在の橿原市立晩成小学校）で 19 日に同校の１年生と幼稚園の小児が高田高女で「青い目の人形」を出迎えたことを報じている[23]。人形の名前は「シヤーレイ・メイ・ブルソクスさん」と「ガード・ルード嬢」で、前者については「シヤーレイさんは、生まれてまた間がないので藍色の毛布にくるまつておねんねばかりしてゐる、目は青色、髪は黄色、口は微笑をもらしてゐる、生れはニユーヂヤーシー州バウンドブルツクである、みんなはシヤーレイさんの早く大きくなるのを楽しんで待つてゐる」とあり、後者については「ガード・ルード嬢はブレインヴイル・コウンに生まれたものでさきのお母さんのエツチヂイ・カースル夫人から日本のお嬢さん達へのお手紙を持つて来てゐる、夏服も三枚持つて来てゐる、両のお手々をひつぱるとあんよもするし高い道に来ると『ママー』と泣く、ほんとに可愛い嬢ちやんなので、みんなからエンゼルのやうに可愛がられてゐる」との説明が書かれてあり、２体を抱きかかえた教員の姿の写真が掲載されている。

上記の新聞記事を発見した時には、もしや高田小学校の氏名不明の「青い目の人形」の名前が判明したのでは？と思ったが、糠喜びに終わった。しかしながら、引き続き研究調査を継続していこうと思う。手掛かりとな

22　武田英子『前掲書』（注 13）、ｖ頁。「現在は校長室に保存」とあるが、現在は上記写真のように小学校の校舎入り口のところに飾ってある。

23　大阪朝日新聞（大和版）「高田の児童らに可愛がられる　青い目のお人形さん」（1927 年５月 24 日）。

るのは、当時の記録（児童の文集など）と関係者の記憶であろう。なお、1997 年（平成 9 年）に「横浜人形の家」が行った調査によれば、全国に保存されている「青い目の人形」286 体のうち、名前不明が 87 体（30%）、パスポート所持が 50 体（17%）、「メリー」の名前が 39 体（13%）となっており、名前がなく「かわいそう」と「メリー」の名をつけた例も多いという[24]。

奈良県に「青い目の人形」が遺された理由としては故・武田氏の以下のような分析があり、それが参考になる。「戦争中に人形処分の通達がゆきわたったのは、その地域の主要な市町村であり、そこはまた、空襲の目標となった戦災圏内でもあった。この二重の危機にさらされて、その土地の人形たちのほとんどが失われた。だから、現在、人形たちが生き残っている場所は、おおかたが海山のかなたである[25]」。データを見れば、確かに大空襲のあった都市圏などにおいては「青い目の人形」は数多く遺されておらず、「生存」する可能性が低かったことが理解できる。例えば、米国から日本に青い目の人形が贈られた昭和 2 年、青い目の人形たちのうちアメリカ各州代表の 48 体は、現在の国立科学館の一画に「人形の家」を新築し、そこに定住していた。皇后の配慮で「人形の宮殿」ができたとアメリカ国民を喜ばせ感動させたというが、この「人形の家」は 1945 年（昭和 20 年）1 月 29 日の空襲で全焼したという[26]。48 体の代表人形たちは、不幸にも祖国の爆弾の犠牲になったのである。

「青い目の人形」が遺された要因としては、他県の話ではあるが、男性が立ち入らない裁縫室に移されたという話や、処分に困った当時の校長が郷土人形の収集家に「俘虜二名を収容してもらいたい」という依頼状を人形に添えて預かってもらった、という逸話もある[27]。

「青い目の人形」のような戦争遺産は、時間が経ってから発見されるも

24　星野義二『世界の平和は子どもから』（言視舎、2020 年）、73 頁。

25　武田英子『前掲書』（注 6）、21 頁。

26　菊地昭男『青い目の人形 アメリカ―秋田友好親善記 (あきたさきがけブック―国際交流シリーズ (No.9))』（秋田魁新報社、1994 年）、43-44 頁。

27　赤崎まき子編著『人形たちの愛は海をこえて：よみがえる青い目の人形と答礼人形』（エイ・ワークス、1996 年）、58-59 頁。

のもある。その意味では、まだ奈良県内のみならず、日本全国に「青い目の人形」が何体か遺されており、私たちの発見を待っていることであろう。

（2）なぜ「青い目の人形」が贈られたのか

こうした「青い目の人形」が米国から贈られ、日本側が日本人形を送り返すという、平和のための草の根交流が行われるようになったのは、そもそも 1924 年（大正 13 年）、日本人移民の全面的な入国禁止条項を含む「排日移民法」が米国議会において成立することから始まった。排日移民法が成立した状況に関しては、山田太一「青い目をした人形大使―知られざる移民哀史」が詳しく、1905 年に日露戦争が終わり、戦争に勝ったものの日本の国力は疲弊しきっており、仕事にあぶれる兵士たちが多く、南米やハワイ、そしてアメリカ本土へと渡る者が少なくなかった[28]。移民のための手引き書や案内書が次々と発行され、1900 年から 1910 年にかけてその移住者数はおよそ 3 倍に増加し（大正 9 年で 11 万 1,010 人）、その多くがカリフォルニア州に住んでいた[29]。1 日 1 ドルの重労働であったが、白人と比べて安い賃金でよく働き、金が貯まれば本国に送金する日本人に対して次第に排斥の目が向けられるようになった[30]。依存せざるを得ない移民の労働力とそれによって現地人が感じる脅威、そしてそこから生じる人種差別―これは近年における英国が EU から脱退した理由を彷彿させるものがある。

以上のように、1920 年代の米国社会は、世界一の経済力を持ち繁栄を謳歌している一方で、非アメリカ的なものを排すという偏狭なアメリカニズムが横行していたのである[31]。これを機に日米関係は悪化し、その中で、「青い目の人形」は日米間の対外世論を緩和させることを目的として計画された国際文化交流であった。『青い目の人形と近代日本―渋沢栄一と

28　山田太一「青い目をした人形大使―知られざる移民哀史」、『歴史への招待　25』（日本放送出版協会、1983 年）所収、207-211 頁。

29　同上。

30　同上。

31　木村昌人『渋沢栄一　日本のインフラを創った民間経済の巨人（ちくま新書）』（筑摩書房、2020 年）、295 頁。

L. ギューリックの夢の行方』を著した大妻女子大学の是澤博昭教授によれば、民間人が中心となり人形というモノを介して人と人とが交流することにより、よその国の文化にふれ、互いを理解することを目的として企画・実行された日米人形交流は、今日頻繁に行われている国際的な親善交流（国際文化交流）の先駆けともいえる試みであった。[32]」と評価している[33]。

「日本資本主義の父」渋沢栄一子爵（1840 年 3 月 16 日 - 1931 年 11 月 11 日）
深谷市所蔵

「青い目の人形」に関する資料をまとめると、以下のとおりである。

1927 年（昭和 2 年）に米国から日本の子どもたちに 1 万 2,739 体の人形が贈られ、ビロードやレースの服が着せられていた。人形は寝かせると青い目を閉じ、抱き起すと「ママー」と話す。人形には名前がつけられ、

32　是澤博昭『青い目の人形と近代日本―渋沢栄一と L. ギューリックの夢の行方』（世織書房、2010 年）、ⅲ頁。

33　もっとも、米国側が排日移民法改正運動に敗れたギューリック博士による教育キャンペーンの一環であり、地域的にも偏りがあり、すべてのアメリカ国民がこぞって参加したわわけではなかったのに対し、日本側は文部省の主導のもとに、市民レベルでの日米親善をはかるという意識がみられなかった点、そして生産力の点から質量ともにアメリカと同じレベルの人形を集めることは不可能なので、数を限定して最高級の人形をつくり日本の人形文化を誇示するなど、答礼人形には日本側のアメリカに対する気負いがあふれている、として日米間のギャップが指摘されている。宮崎広和・是澤博昭・井上潤 (編)『平和を生きる日米人形交流』（世織書房、2019 年）、28-29 頁。

日本各地の小学校や幼稚園に配布された[34]。学校行事として行われたひな祭りに合わせて贈られ、「青い目の人形」は、当時は日本人形と並べられ歓迎式典が行われた。こうした人形のやり取りは、そもそも両国の子ども同士の交流を深め、反日感情を無くそうとする目的であった。アイデアを思い付いたのは宣教師シドニー・ルイス・ギューリック（Sidney Lewis Gulick：1860 年 4 月 10 日 - 1945 年 12 月 20 日）博士で、彼は同志社大学で教鞭をとった 20 数年に及ぶ教師経験があり、親日家でもあったため[35]、日本に「雛祭り」や「五月人形」などの人形文化が根付いていることに着目した[36]。発案した当時、ギューリック博士は渋沢栄一に以下のような意味の提案をしたという[37]。

・日米の親善は気永くやらねばならぬ。それには、未来の国民たる子供が、お互いに相知り相親しむことが必要であるから、これに資するためにアメリカから人形を贈りましょう。そして、日本の雛の節句の当日三月三日までに到着するようにしよう。そうすれば、相当効果を収めることが出来るであろう。

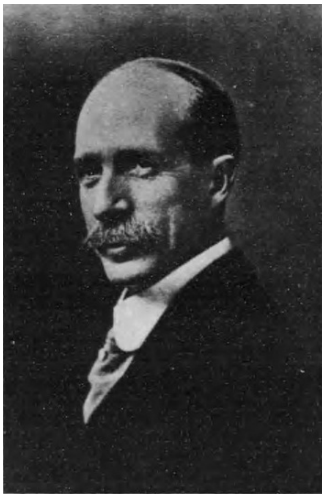
34　帝塚山大学の母体となった帝塚山学院にも、昭和 2 年 1927 年 3 月 2 日の女学部日誌によれば、当時の校長が府庁に出張して亜米利加人形受領という記録がある。また、『帝塚山学院年譜』には、同年 10 月 19 日にアメリカ人形の答礼として日本人形をアメリカに送る会が中之島の中央公会堂であり、学院からも高等女学校生徒 40 人が代表で参加したという。その後、アジア太平洋戦争の拡大による戦時体制下において敵国の青い目の「友情人形」は、歓迎から一変して処分の対象となった。「この人形が学院でどのように扱われたかは、今のところ不明である」という。創立 100 周年記念誌編纂委員会（編）『帝塚山学院 100 年史』（帝塚山学院、2016 年）、157-158 頁。

35　父がキリスト教の宣教師であったため、多くの国を渡り歩いたことや一生の間に 12 以上もの言語を学んだ。また、若い時は天文学者に憧れを抱いていたことや、日本に来日した当初は熊本にある男子校で英語を教え、彼自身も日本語を流ちょうに話せるようになりたかったため、毎日 6 時間から 8 時間を日本語の勉強に費やしたという。シドニー・ルーイス・ギューリック 3 世講演 ; 麻生由紀 [ほか] 翻訳『Doll messengers of friendship : 友情の人形 / シドニー・ルーイス・ギューリック 3 世講演』（ギューリック 3 世を招く会、1997 年）、J1 頁。

36　木村昌人『前掲書』（注 31）、308 頁。

37　渋沢栄一が個人的に日米交流に関わるきっかけを作ったのは日露戦争当時の桂内閣の外務大臣、小村寿太郎であった。日露戦争以前には良好であったアメリカとの関係が様々な問題が表面化するにつれて最悪の状況に変わっていった。それらの問題とは満州での日本の経済活動に対する両国の意見の相違とか日本人移民をめぐるカリフォルニアでの反日運動などであった。渋沢研究会編『公益の追求者・渋沢栄一 : 新時代の創造』（山川出版社、1999 年）、172 頁。

・そして、ニューヨーク米日関係委員会で、このことを実行するというような、角立ったものでなく、単に吾々発起者が企画して、各学校へ檄を発し、人形を集めて贈りたいと思うがどうであろうか[38]。



宣教師シドニー・ルイス・ギューリック博士
（Sidney Lewis Gulick：1860 年 4 月 10 日 - 1945 年 12 月 20 日）

ギューリック博士の提案を受けたのち、渋沢栄一が了承の手紙を送ると、博士から折り返し手紙が届き、大阪朝日の木村という記者からインタビューを受け、ドール・プロジェクトについて話したところ、日本では 1921 年（大正 10 年）に野口雨情が作詞した「青い目の人形」という童謡が人口に膾炙していることを知り、そういう下地があるならプロジェクトの推進にとって好都合だと考えたという[39]。

もっともこの時期、反日感情が高まる中、ギューリック博士が親日家でもあったため、博士の強い日本人擁護論は「差別主義者の反論の好餌」と

38　白石喜太郎『渋沢栄一 92 年の生涯 冬の巻』（国書刊行会、2021 年）、223 頁。

39　鹿島茂『渋沢栄一 下 論語篇 (文春文庫)』（文藝春秋、2013 年）、203-204 頁。野口雨情の歌は、大正時代にアメリカからキューピー人形が入って来た時に作られたものであるという。教科研授業づくり部会編・森脇健夫・他『戦争を考える授業　青い目の人形物語』（学事出版株式会社、1990 年）、36 頁。

なり、「過激派」「アメリカの安全を脅かす危険分子」と呼ばれたり、FBI（連邦捜査局）の前身である情報機関などの注意人物リストに名前が載せられ、私信のチェックが行われるなど博士の名誉は大きく傷ついた[40]。日米関係が悪化していくなかで、人形交換プログラムに情熱を傾けるギューリック博士に対し、人形を購入するための予算を申請することは「泣き面に蜂」になるのではないかと非難する者さえいたという[41]。

童謡「青い目の人形」
作詞：野口雨情　作曲：本居長世　（1921 年）

青い目をした　お人形は
アメリカ生まれの　セルロイド
日本の港へ　ついたとき
一杯涙を　うかべてた
「わたしは言葉が　わからない
迷子になったら　なんとしょう」
やさしい日本の　嬢ちゃんよ
仲よく遊んで　やっとくれ
仲よく遊んで　やっとくれ

【You Tube】童謡 青い目の人形 (童謡歌手、内田由美子さん)

40　高岡美知子『人形大使―もうひとつの日米現代史』（日経 BP 出版センター、2004 年）、43 頁。
41　Sandra C. Taylor, *Advocate of understanding : Sidney Gulick and the search for peace with Japan*, Kent State University Press, 1984, p. 180.

その後、ギューリック博士は米国内で資金を集め、12,739 体の人形を購入、それぞれの人形に名前を付けて本物そっくりのパスポートを持たせて日本に贈った[42]。1926 年（昭和元年）に設立された「世界児童親善会（CWFC: the Committee of World Friendship among Children）」が世界平和の実現のためには子どもの頃から相互理解と親善の心を育てる文化交流が必要だとして、「アメリカキリスト教教会連盟」などを中心に日本への「友情人形」の送付を全米各地に呼びかけている[43]。その趣旨説明のために同会が作成したパンフレットには、アメリカの子どもたちに次のような提案をしている。

一、子どもたちが、日本の美しい雛祭りの習慣を知り……あるがままの日本という国に親しみをもつこと。
二、たくさんの人形を送り、日本の人形の仲間入りをさせ、米国の子どもの好意と友情を伝える使者とすること。

これに協力した子どもたちの多くは、劇やバザー・募金で資金を集め、同会の指定する業者から 3 ドル程度の裸人形を割安で購入し、各自が手作りの衣裳を着せ、名前をつけ、親善の手紙を添えたという[44]。

親善大使としての役割を担った第一陣の人形 800 個は 1926 年 12 月 18 日にニューヨーク港から船に積み込まれ、1927 年 1 月 22 日に横浜港

42　渋沢とギューリック博士は 1910 ～ 20 年代における国内外の諸問題を、学者・宗教者・実業家などが集い、議論し、その成果を社会に発信しようとした団体である帰一協会で出会っている。ギューリック博士の日本滞在中はごく短期間の接触であり、あまり深いともいえなかった彼らの関係は、むしろギューリック博士の帰国後に、日本人移民排斥問題を通して深まったという。見城悌治（編）『帰一教会の挑戦と渋沢栄一　―グローバル時代の「普遍」をめざして―』（ミネルヴァ書房、2018 年）、1、116-119 頁。

43　世界児童親善会（CWFC: the Committee of World Friendship among Children）は、日米間における人形交換プログラムののち、1945 年から 1950 年の間に 200 万体もの人形をヨーロッパやアジアに贈り、他国との緊張関係の緩和を図るべく米国の外交関係への関与を行っていったという。Kohiyama Rui, "To Clear Up a Cloud Hanging on the Pacific Ocean: The 1927 Japan-U.S. Doll Exchange", *The Japanese journal of American studies*, vol. 16 (2005), p.71.

44　渋沢研究会編『前掲書』（注 37）、182 頁。

に無事到着した[45]。渋沢栄一が創立に関わった、日本経済新聞の前身である『中外商業新報』などが大々的に取り上げたこともあり、前月 25 日に崩御した大正天皇の喪中にもかかわらず、日本でも大変なフィーバーを生み出した[46]。

日本側の交流の立役者は渋沢栄一であった。「青い目の人形」の到着を機に 1927 年（昭和 2 年）3 月 3 日には東京の日本青年館で「親善人形歓迎会」が開催されたが[47]、文部大臣、外務大臣、米国大使、渋沢栄一ら日米関係団体の代表者、各小学校（代表女生徒 1,500 人）、アメリカン・スクールの子ども（200 人）やその保護者など 2,000 人が集まったという。戸山学校軍楽隊の演奏に合わせて君が代とアメリカ国歌が合唱された後、アメリカ 48 州を代表しアメリカン・スクールの生徒 48 名が「ドール・ソング」を、日本側の代表である学習院と御茶の水女高師附属小学校の女生徒 48 名が「人形を迎える歌」をそれぞれ合唱する中、アメリカ領事の娘ベティ・バレンタイン嬢が進み出て挨拶し、日本側代表の徳川家達の孫である徳川順子嬢に人形を手渡すと、徳川順子嬢が立派に返礼した。それを合図に、アメリカの女生徒たちから日本の女生徒たちに人形が 10 人ずつ並んで出ては次々に手渡された[48]。

「人形を迎える歌」

海のあちらの友だちの
まことの心のこもってる
かわいいかわいい人形さん
あなたをみんなで迎えます。

45　最初に乗せたのはサイベリア号で、2 月にメリン丸、前橋丸、ライン丸、アルグン丸などが次々に横浜港や神戸港に到着した。埼玉県平和資料館編『令和 2 年度テーマ展図録　渋沢栄一と平和　～青い目の人形とその時代～』（埼玉県平和資料館、2021 年）、18 頁。

46　鹿島茂『前掲書』（注 39）、204-205 頁。

47　残っている記録によると、12,739 体の人形が送られたが、日本で受け取ったとされる合計は、12,294 体といわれているという。シャーリー パレントー『青い目の人形物語 (1) 平和への願いアメリカ編』（岩崎書店、2015 年）、342 頁。

48　白石喜太郎『前掲書』（注 37）、219-220 頁。鹿島茂『前掲書』（注 39）、205-206 頁。

海をはるばる渡り来て
ここまでお出での人形さん
さびしいようには致しません
お国のつもりでいらっしゃい。

顔も心もおんなじに
やさしいあなたを誰がまあ
ほんとのいもうとおとうととと
おもわぬものがありましょう。

【You Tube】人形を迎える歌

この時の親善人形歓迎会の様子と渋沢栄一の発言は、筆者自身が同会に参加していたという白石喜太郎『渋沢栄一 92 年の生涯 冬の巻』にその詳細な様子が綴られている[49]。渋沢は挨拶の中で子ども時代を回顧し、「私は男でありますから、（中略）3 月 3 日のお節句がきたからとて、別に嬉しいこともございませんでした。しかるに 80 年を経過した今日、この雛祭りを皆さんと共々特別に嬉しく迎えて、真に楽しく喜ばしく感じたのであります」「私が自ら申すのも可笑しいのでありますが、私が十四歳のときに、アメリカのペリー提督という人が日本へ参られましたが、このときが日本がアメリカと関係の生じたそもそも初めであって、今から申しますと七十五年前であります。私はほんの子供ではありましたが、子供心にアメリカに対し深い感じを持ち、爾来、アメリカと日本との親善ということについて心配し、出来るだけ力を尽くして参ったのであります。」「今回の人形のことは、アメリカの人々が両国の親善を増すには子供のうちからや

49　白石喜太郎『前掲書』（注 37）、217-224 頁。

らねばならぬ、その方法としてアメリカから人形を贈ろう、すれば両国の子供の間に親しみが生じ、よい感じを得るだろうというところから、いよいよ贈られ、このほど大部分到着しましたので、本日授受の式を挙げた訳であります。」「大使は謙遜されて、自分はサンタクロースに似ないとのお話でありましたが、私はあるいはサンタクロースに似ていると申してもよいかと思いますから、八十八歳の私がサンタクロースとなって、日本の皆さんにお分けしたいと思います。」「私は晩年になってから、ようやく雛祭りの嬉しさを感じたのでありますが、こうして日本とアメリカとの国交がいよいよ親密に持続することを、衷心より切望するのであります。終わりに臨み、大使閣下に対し厚くお礼を申し上げます」と述べた[50]。

サンタクロースのくだりについては、鹿島茂『渋沢栄一 下 論語篇 (文春文庫)』によれば、マクベー駐日大使が「私は痩せているのでサンタクロースには似ていないが、お人形を日本のお嬢さんたちに贈ったということだけはサンタクロースだといえます」と挨拶すると、渋沢がすかさず返礼スピーチの中で「それでは私がサンタクロースになりましょう」と当意即妙に答えたので、アメリカ側の来賓たちからドッと笑い声がもれた、と描写されている[51]。

日本からは 58 体の日本人形がお返しに贈られた。「青い目の人形」は当時、「友情人形」と呼ばれていたが、これに対するお返しとして日本側が「答礼人形」を贈るべく、文部省が提案し、実業家の渋沢栄一が作った「日本国際児童親善会」が中心となり、「青い目の人形」の配布校では女子児童一人につき一銭の寄付を募ったうえ[52]、約 58㎝の市松人形 58 体を購入したとある[53]。答礼人形を贈るために 643 体と最も多く「青い目の人形」が

50　鹿島によれば「今日のこの催しが、国交の親しみの上に響く事あると思ひますと、また一入喜ばしさを感じるのであります」と結んだという。鹿島茂『前掲書』(注 39)、206 頁。

51　鹿島茂『前掲書』(注 39)、206 頁。

52　当時の小学校、幼稚園数が約 2 万 6,500 校であることから単純に計算すると 2,4 校に 1 校の割合で配付されたことになる。また、これに応えて日本側は配付を受けた各学校の女子の募金によって返礼の人形を製作し、それをクリスマスにむけてアメリカに送った。募金の参加児童は約 269 万人と推定されているが、これは人形配付校の児童数から男女比を対等と考え単純に 2 で割った数字である。渋沢研究会編『前掲書』(注 37)、183 頁。

53　1 体 350 円（デジタル版『渋沢栄一伝記資料』第 38 巻、81 頁によれば、人形の価格が

贈られた北海道が 1,608 円、それに次ぐ 568 体が贈られた東京都が 1,420 円を集める中、144 体が贈られた奈良県の場合は、360 円の金額を集めた。

注目すべきは、答礼の方法として人形を寄贈することが検討されていたが、この時「奈良人形カ　京人形カ　東京ニ於テ製作スル現代人形カ」という記録が残されているように、奈良人形が候補として挙がっていたことである[54]。結局、日本の代表人形と東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸の六大都市の人形、あわせて七体が京都の人形店に制作を依頼され、各道府県の代表と、朝鮮、台湾、樺太、関東州の代表人形の計 51 体が東京雛人形卸商組合に発注された[55]。

当時の記録によれば、既に返礼として日本の児童たちの作文や、絵や、いろいろなものを米国の小学校に送っていたため、サンタクロースとしてクリスマスに日本の人形をプレゼントすることについて渋沢栄一は「せめて日本を代表するようなお人形を贈りたいし、さうすると高いので各州に一つし宛しか贈れない・・・それにあとで博物館にでも飾つて貰ふのにはどうしても余りひどいものでもいけないし・・・」などと悩んでいたため、「……サンタクロースのお爺さんになるのは、お孫さんの面倒を見るより手が掛ると、渋沢子今からいろいろこの暮のことを考へてゐる、処が『いくら立派なものを贈つても、アメリカの女の児たちはすぐ抱いたりキスしたりして、日本の人形はメチヤメチヤになるでせう！』などと傍の人が注意するので、此頃は秘書役までが心配して『どなたかサンタ爺にいゝ智恵を貸して下さる方は御座りませんか――』」といった内容の報道があったという[56]。

---

150 円位、衣装も 150 円位、持物（箪笥、鏡台、傘、下駄等）が 50 円位と見積もられていた）、当時のサラリーマンの月収がおよそ 60 円とあるので、約 6 倍である。現在の価値に換算すると、サラリーマンの月収を 30 万円とすると、180 万円ということになる。なお、答礼人形は朝鮮や満州国にも贈られたが、是澤教授によれば、朝鮮への友情人形の配付は「アメリカと対等に交流する日本の姿を朝鮮人に見せびらかす『道具』として利用され」、また、満州国・朝鮮との人形・子供使節による交流は、「『子供』や『人形』というソフトなイメージで政治的な摩擦を和らげ、その帝国主義的な支配の実体をおおいかくす目的で使用され」たのであり、これらの事例は、「朝鮮や満州国への文化的な侵略の一環として」行われたものだという。是澤博昭『前掲書』（注 32)、218 頁。

54　デジタル版『渋沢栄一伝記資料』第 38 巻、82 頁。

55　赤崎まき子編著『前掲書』（注 27)、40 頁。

56　デジタル版『渋沢栄一伝記資料』第 38 巻、83-84 頁。なお、戦後、1945 年（昭和 20 年）

一流の人形師が製作した人形は友禅縮緬（ちりめん）の衣装に本金の帯を締め、ミニチュアのたんすも持たせた。1927 年（昭和 2 年）11 月 4 日には 58 体の人形を集め日本青年館で歓送会が行われ、天洋丸という船に乗り、横浜港から出港した。同年 11 月 25 日にはサンフランシスコに届いた[57]。各都道府県や植民地を代表し「ミス東京」「ミス台湾」などと命名された人形は全米 479 都市を巡回した後、各地の博物館などに保管されたという[58]。なお、皇室からの 58 体目の人形は、とりわけ高価で美しく、「ミス大日本（だいにっぽん）」と名付けられた。また、アメリカからの人形たちと同じように、どの人形も日本の子どもからの手紙を持ち、旅行用の服に蒸気船の切符、パスポートを携え、一等船室に乗って旅をしたという。「持ちものも、日本の生活で使われる小道具まで、添えられていました。お茶の道具などは、日常づかいのものと晴れの日用の正式なものの両方がありましたし、そのほかにも漆ぬりの小さなたんすや、入れ子式になった机、絹の笠のランプ、人形のための小さなおもちゃやお人形まであったのです。衣装は、捺染めや、繊細な手がきのもようの雅やかな絹の着物で、人形の顔は、カキの殻も混ぜてある混合素材でしっかり作られていました。」という[59]。

こうした米国からの友情人形とそれに対する日本側からの答礼人形をそれぞれ贈り合うという人形交換プログラムについては、高岡美知子『人形大使 もうひとつの日米現代史』の結論部分が「渋沢とギューリックの思い

---

12 月 22 日、昭和天皇は日本で初めて迎えるクリスマスに、プレゼントとして米軍最高司令官マッカーサー元帥へ「文台硯箱」を、同夫人には「雛人形道具」を贈ったといわれる。著者の菊地は「二十年前の『人形交流』の思い出から『人形』を選ばれたのだったろうか。」と書いている。菊地昭男『前掲書』（注 26）、43 頁。

57　日本を発った答礼人形はハワイのホノルルで 4 時間逗留し、5,000 人からの歓待を受けた。David B. Hartley and Katherine C. Hartley, “The 1927 American-Japanese Friendship Doll Exchange and the Dream of International Peace”, *South Dakota History*, Vol. 36, No. 1（2006）, p. 55.　なお、現地の新聞報道では 6,000 人と報道されている。“DOLL AMBASSADORS OF GOODWILL VISIT HONOLULU”, *The Palisade Tribune*, Volume 25, Number 34, January 20, 1928.

58　読売新聞「日米の人形交流新時代　黒い目　『ミス奈良』来月里帰り」（1994 年 6 月 11 日、東京夕刊）、10 頁。

59　シャーリー パレントー『前掲書』（注 47）、343 頁。

をよく汲んだ素晴らしい文章」であり、「付け加えるべきことは何もない。」とフランス文学者・評論家であり、渋沢栄一研究者でもある鹿島茂（元明治大学国際日本学部教授）が評価しているので以下に引用する[60]。

異なった文化の理解の媒体として人形を使うというアイデアのすばらしさ。絵でも壺でもない、人間に一番近い存在としての人形を実際の人間に代えてという先見は大いに賞賛されてよい。

個人として人形を贈り合うことで、遠い国同士は、目の前の人形の出身地、贈り主の住む国ということで、一気に近しい関係に変わった。あの人の住むあの国という思い―日米共にこの 1927 年の人形交流にかかわった人々、両国合わせて 530 万人は、一人ひとりが親善大使の役を担って外交体験をしたことになる。個の集積の無いところに国際親善は成り立たない。あったとしてもそれは空疎な虚構に等しい。

ギューリックや渋沢は、日米両国民の理解が、一部の指導者のみでなく、持続的・恒久的に人々の間で続くことを願って、人形の計画を進めた。パスポートや手紙を持たせる等の教育的配慮を含め、当時としてはとてつもなく遠い異国の地の子どもたちの心を結び合うという遠大な視点で進められた計画である[61]。

ところが、戦争が始まると、「青い目の人形」は焼却処分や竹槍で突き壊されたりした[62]。中には、戦意高揚の一環として、油をたぎらせた釜に人形を放り込み、周囲を隊列行進するといった儀式まで開かれた学校もあったという話や[63]、さらには、男性教員が子どもたちの前で「ころしてやる」と人形の首をもいでみせたという記録が残っている[64]。

60　鹿島茂『前掲書』（注 39）、209-210 頁。

61　高岡美知子『前掲書』（注 40）、418 頁。

62　『近代子ども史年表　昭和・平成編』によれば、1942 年 8 月の出来事として、「鳥取市内の各国民学校で、生徒が集めた青い目の人形を「鬼畜米英」と叫んで焼却する。」、1943 年 2 月の出来事として「青森県西津軽郡の教育会が、日米親善のためアメリカから青い目の人形を 1 カ所に集めていじめ、子どもたちにアメリカへの敵愾心を植え付けることを決める。同様の各地が全国に広がる。」という記録が掲載されている。下川耿史（編）『近代子ども史年表　昭和・平成編』（河出書房新社、2002 年）、113、117 頁。

63　愛知県内の話。朝日新聞「『青い目』何を見たの　戦意高めるため釜へ　かくまわれ里帰り豊川の元教師が本に」（名古屋、2008 年 12 月 9 日）。

64　永井萠二『見知らぬ人見知らぬ町―ルポルタージュ 国境の町から火の国へ』（太平出版社、1980 年）、172 頁。その他、長崎県のある学校では、ハンマーで粉々に壊したところもあるという。松永照正『あやと青い目の人形―ナガサキで被爆した少女の物語』（クリエイティブ 21、2003 年）、

こうした処分に関して、1943年（昭和18年）2月19日の毎日新聞には「青い眼をした人形　憎い敵だ許さんぞ　童心にきくその處分」という記事が掲載された。当時の文部省国民教育局総務課長の談として「全国各国民学校に青い眼の人形が飾られているとは思ひません。あるとしても15年前の人形を麗々しく飾つてあるとは思えない。しかしもし飾つてあるところがあるならば速に引つこめて、こはすなり、焼くなり、海へ棄てるなりすることには賛成である。常識から考へて米英打倒のこの戦争が始まったと同時にそんなものは引っ込めてしまうのが当然だろう。この人形の処置について児童に回答を求めるなどといふことは面白いこゝろみである」とある[65]。「人形の渡日経過だけを説明し」子どもたちに問いかけたところ、「日米親善のふれこみ」で寄贈された人形は、「今にして思えば恐ろしい仮面の親善使」であるから、「焼いてしまへ（133名）」「破壊（89名）」「送り返せ（44名）」「目のつく所へ置いて毎日いぢめる（31名）」「海へ棄てろ（33名）」「白旗を肩にかけて飾っておく（5名）」「米国のスパイと思って気をつけよ（1名）」といった回答があったという[66]。

まさにこの時、時を同じくして日本が米国に贈り返した答礼人形も、戦時中は米国において後ろ向きにされたり、片づけられたりしたという。例えば、ミス・香川の場合、戦争が始まってから人形に以下のような内容の説明が加えられた。「神はその破壊せんとする人々をまず狂気にしたまう」と題して「1941年12月7日、日本はアメリカ領であるハワイに狂気の襲撃を行った。われわれは日本の侵略を阻止せんとにがい決意を固めざるを得ない。だが血に迷って日本人のすべてを絶滅させることではない。われわれは平和と善意、そして人間同士が自由に生きることの信念を捨ててはいない。日本の男女、子供たちにもこの善意はあるが無情な指導者の支配下にある。1926年から27年に日本の子供たちと交換し、この展示の

22頁。

65　歴史教育者協議会（編）『世界と出会う日本の歴史〈5〉アメリカからきた青い目の人形―第1次・第2次世界大戦』（ほるぷ出版、1999年）、12-17頁。

66　武田英子『前掲書』（注13）、41頁。鯵ヶ沢国民学校の児童を対象とした人形の処置についてのアンケート結果。埼玉県平和資料館編『前掲書』（注45）、34頁には大阪版の記事も掲載されている。

通り両国で展示された。このようなかくれた親善を証明するのが友情人形である。」という内容であった。この説明は 1942 年につけ加えられ、その年の終わりに人形と共に展示から取り除かれたという[67]。

武田英子氏は「だれが命じたジェノサイドだったのか。軍部からとも伝えられ、文部省指令だったともいわれるが、その黒い命令によって、多くの『青い目の人形』たちは、校庭にひきすえられ、見せしめの死をあたえられた。臨終のとき、パッチリ見ひらいた青い目で、人形たちはなにを見ただろう 。」と書いている[68]。また、奈良県北葛城郡王寺町機銃掃射を受けた鈴木知英子さんが、戦後、語り部をする中で「青い目の人形」の話をしたところ、ある男の子がつぶやいた、「青い目の人形じゃなくもし青い目の子どもがいたらどうしたんやろ」という言葉についても考えさせられる[69]。

（3）答礼人形のその後

「青い目の人形」の存在が思い出されるようになったのは 1973 年（昭和 48 年）頃という[70]。米国でも、58 体贈られたあった人形のうち、46 体が見つかり、修理を受けて米国各地の美術館などで展示されているという[71]。日本から米国に送られた人形にはそれぞれ都道府県の名前が付けられているが、奈良県の「ミス奈良」をはじめとする答礼人形の行方に関しては、文献や新聞記事データベース、そしてインターネット上に公開され

67　小林恵「海を渡った人形大使」、『歴史への招待　25』（日本放送出版協会、1983 年）所収、227 頁。なお、武田英子『前掲書』（注 13）、48 頁には原文（英文）も掲載されている。

68　武田英子『前掲書』（注 6）、18 頁。

69　鈴木知英子『「青い目の人形」の声が聞こえる』（2014 年）、34 頁。

70　シャーリー パレントー『前掲書』（注 47）、345 頁。

71　Friendship Dolls 研究家の Bill Gordon 氏の HP や文献などを調べると、現在、答礼人形は 38 体が博物館などで展示あるいは保存されている。「ミス宮城」や「ミス青森」は個人所有になっており、「ミス愛媛」にいたっては、1969 年のハリケーン Camille によって破壊されるという被害を一度受け、その後、1988 年に愛媛県の子どもたちが募金を行い、新しい「ミス愛媛」を贈りなおしたものの、2005 年のハリケーン Katrina によって再び破壊されたという運命をたどった人形もあった。こうした現在の答礼人形の行方については、Bill Gordon 氏の HP（2021 年 4 月 22 日にアップデートされている）や高岡美知子『前掲書』（注 40）、そして武田英子『前掲書』（注 13）が詳しい。

てあるHPを通じて情報を得ることができた。とりわけビル・ゴードン（Bill Gordon）氏が提供するFriendship Dollsに関するHPの情報量は圧巻のひとことである。

Friendship Dolls研究家のBill Gordon氏と「青い目の人形」に関するHP

＜ Miss Nara ＞

http://www.bill-gordon.net/dolls/japanese/nara/index.htm

ワシントン州立大学図書館のデジタルコレクション
https://content.libraries.wsu.edu/digital/collection/imls_3/id/519
「ミス奈良」のパスポート

https://content.libraries.wsu.edu/digital/collection/imls_3/id/496

答礼人形としての「ミス奈良」は、1927 年 10 月 8 日（昭和 2 年）の大阪朝日新聞（大和版）によれば、「ミス・ナラ嬢の　持物は澤山　十一日から送別展　來月十日アメリカへ」という見出しのもと、「この人形は高さ二尺八寸友禅の振袖に同じく下着を重ね本金の丸帯をしめ持ち物としてはフエルト草履●●、燭台、駒下駄、たんすの類、本懸からは鹿と雛人形の一刀彫一對づゝと多少の小遣●を持つてやらせる、この費用人形代百五十圓、着物代百五十圓、持物小道具五十圓、土産品代五十圓であると」と報じている[72]。

72　大阪朝日新聞（大和版）「ミス・ナラ嬢の　持物は澤山　十一日から送別展　來月十日アメリカへ」（1927 年 10 月 8 日）。

＜ミス奈良を作成した初代・松乾齋東光（しょうけんさいとうこう）氏＞
※ビル・ゴードン（Bill Gordon）氏が提供する Friendship Dolls に関する HP は「しょうかんさい」となっているが、現在は 3 代目が継いでいる松乾齋東光市松人形工房の HP（https://www.ichimatsu.jp/）で確認すると正しくは「しょうけんさい」である[73]。

Maker of Ichimatsu Dolls
Toko Shokansai

http://www.bill-gordon.net/dolls/japanese/shokansai/index.htm

また、米国側へ送られた手紙も Bill Gordon 氏の HP において公開されている。米国から贈られた友情人形に対して、奈良県の第一尋常小学校（現在の椿井小学校、1941 年（昭和 16 年）4 月 1 日の国民学校令施行により「奈良市立椿井国民学校」と改称）5 年生の「かげばやしのぶえ」さんがお礼の手紙を送っている。ビル・ゴードン（Bill Gordon）氏が提供する Friendship Dolls に関する HP には手紙の封筒の写真が掲載されているが、そこには「亜米利加合衆国　少年少女の皆様へ」と書かれてあり、内容は以下のとおり。

73　なお、米国に贈られた人形をつくる元締だったのは東京・浅草橋の人形店「吉徳」の 10 代目山田徳兵衛であったという（1983 年に逝去）。朝日新聞「ニッポン　人・脈・記　拝啓　渋沢栄一様⑨　人形大使の心たどる旅　1 円募金来るわ来るわ」（2007 年 2 月 27 日）。

I am looking at a forest where our village shrine is built. There is a river running below the forest. It is summer, and strong sunshine falls upon them and everything appears tinged with green.

Looking through my windows at this scenery, I am writing this letter of thanks to the girls and boys of America who sent us this beautiful doll.

It was May 20th, I think, the day the azalea in our garden began to bloom, that our teacher introduced us to a blue-eyed doll from America. She has a beautiful dress and hat and very pretty shoes. She has come to live with us, and we are so happy that we feel we are in dreams and we say to each other, "What a warm heart the American boys and girls have."

I learned in my lesson of geography that the Pacific Ocean is the largest in the world, and, think of it, she came across it, but she shows no sign of a hard trip. She says "Mama" and plays with us. We have shown her the Japanese firefly, and the girls, with red bands around their heads, planting rice.

Dear American children, we shall not forget you, even in our dreams. This doll is a messenger of peace. When I saw her and heard her say "Mama" I couldn't help but feel a warm sensation run through my body, and a thought came to me that we children in America and Japan are really brothers and sisters.

We are hoping to send our O Ningyo San (Miss Doll) to you some day, but now we are thanking you for your great kindness.

（前略）窓越しにこの景色を眺めながら、この美しい人形を送ってくれたアメリカの女の子と男の子に感謝状を書いています。（中略）私たちは私たちが夢の中にいると感じてとても幸せです、そして私たちはお互いに「アメリカの男の子と女の子が持っているなんて暖かい心」と言います。（中略）親愛なるアメリカの子供たち、私たちは夢の中でさえあなたを忘れません。この人形は平和の使者です。彼女を見て「ママ」と言うのを聞いたとき、体に温かい感覚が伝わってくるのを感じずにはいられず、アメリカと日本の子供たち

は本当に兄弟姉妹だと思いました。いつかお人形さんをお届けしたいと思っておりますが、取り急ぎ御礼申し上げます。

http://www.bill-gordon.net/dolls/letters/letters1927/japanese/kagebayashi.htm

また、研究調査中に、奈良県下のどの市町村史にも学校史にも「青い目の人形」に関する記録が無いと思っていたが、唯一、『奈良教育大学史 : 百年の歩み』に「アメリカ『平和の使者』を迎える」というキャプションでの写真付きで記録が残されていた。僅か２頁であり、「青い目の人形」がその後どのように「処分」されたかまでは記されていないものの、貴重な記録であるといえよう。内容をまとめると、現在の奈良教育大学附属小学校が「男子師範付属小学校」と呼ばれていた 1927 年（昭和２年）当時、アメリカからの「平和の使者」（西洋人形）が文部省から県庁を経て贈られてきた。これはオハイオ州グランビールのリットン・ハウスに住むロイス・エムという人から日本全国へと送られたロイス・ジョアンという名の人形 (12,000 体) の一体で、「友情と親愛の連帯」(the ties of friendship and brotherly love) を呼びかけてきたものであったという。これに対して附小は、「児童一同」の名をもって「感謝状」を送り、日本の人形と一緒に撮った記念写真を同封した[74]。なお、元の情報源である奈良懸師範學校附屬小學校『わかくさ』第 19 號（昭和２年８月）に関してはインターネットで公開されており、「青い目の人形」の写真とともに感謝状の全文を閲覧す

74　奈良教育大学創立百周年記念会百年史部編『奈良教育大学史 : 百年の歩み』（奈良教育大学創立百周年記念会、1990 年）、398-399 頁。

ることができる（iii 頁に「青い目の人形」の写真、16-20 頁に「アメリカからの人形が齎らした書信とその禮状」）。

資料 元「平和の使者」への感謝状（部分）（昭和二年五月）

（前略）みんなで仲よく奈良の公園を散歩してゐる写真を御覧なさい。そして御記憶下さい。私達と米国の皆様との厚い友情は全くこの写真が表はしてゐる通りだといふことを。皆様私達の住まってゐる町は奈良といって、自然美の最も勝れた世界に名高い公園のある所です。美しいビロードのやうな緑の芝生の上に、千年以上も昔の歴史の跡を有して、其処には至る所に実におとなしい鹿の群れが遊んである為に、日本に遊んだ貴国人の中に、私達の奈良を訪れなかったといふ人は恐らくは無いだらうと思ひますが、ミス・ロイスはその名高い町の、そしてその名高い公園の中にある私達の学校へ来てくれたのです。

皆様、どうか御安心下さい。遥々と海を越えて私達の許へ持って来た皆様の暖かい友情の使命を十分に果して、ミス・ロイスはとうとう私達の愛する永久の友達同志になってくれました。私達はかうして完全にお互いの心と心を結びつけたのです。そして皆様の代表であるミス・ロイスの有ってゐる暖かい心は、暖かい日本の気候と美しい友情とに恵まれて、立派に成長してゆくに違ひありません。(後略)

奈良県師範学校附属小学校

児童 一同

情報源である『わかくさ』第 19 号（昭和 2 年 8 月）がインターネットで公開されており、写真も以下の QR コードからアクセス可能であり、人形の姿を見ることができる[75]。

75 「アメリカからの人形が齎らした書信とその禮状」『わかくさ』第 19 号（昭和 2 年 8 月）、16-20 頁。https://www.nara-edu.ac.jp/ARCHIVE/WAKAKUSA/w19a03.htm（最終アクセス日時：2021 年 7 月 6 日）

「答礼人形」に関しては、乾燥している米国の気候によってひび割れ（crack）が入り、修復の必要性もでてきた。「ミス奈良」の修復の要請に関しては、当時のアイダホ州知事である Cecil Andrus から奈良県の柿本善也知事（当時）に対して 1993 年（平成 5 年）6 月に手紙が送られている。修復に関しては奈良県民とアイダホ州民で寄付が行われた。1994 年（平成 6 年）7 月にはアイダホ州歴史博物館長の Kenneth Swanson 氏が「ミス奈良」を修復のため日本に里帰りさせた。修復作業は、東京・浅草橋にある人形店「吉徳」を通じて二代目・松乾齋東光氏の手に渡った。同年 10 月には人形の修復が完了し、Swanson 氏は柿本知事から「ミス奈良」と「新・ミス奈良」を手渡された。現在、両人形はアイダホ州の歴史博物館に展示されている。アイダホ州からは「ミス奈良」の修復に感謝の意を表して Nez Perce Doll が贈られた。このネズ・ペルセ人形は、アイダホ州、オレゴン州北東部、ワシントン州南東部に住んでいたネイティブアメリカンの人々を模した人形である[76]。

＜新・ミス奈良＞

http://www.bill-gordon.net/dolls/japanese/nara/newmissnara.htm

76　＜ Nez Perce Doll ＞ http://www.bill-gordon.net/dolls/japanese/nara/nezdoll.htm（最終アクセス日時：2021 年 7 月 6 日）。

ワシントン州立大学図書館のデジタルコレクション

https://content.libraries.wsu.edu/digital/collection/imls_3/id/475

「新・ミス奈良」のパスポート

https://content.libraries.wsu.edu/digital/collection/imls_3/id/498

Nez Perce Doll

http://www.bill-gordon.net/dolls/japanese/nara/nezdoll.htm

「ミス奈良」の里帰りについては讀賣新聞に記事が掲載された[77]。記事によれば、行方不明になっていた「ミス奈良」は、現地在住の日本人女性が問い合わせたのがきっかけで 1993 年（平成 5 年）1 月にアイダホ州ボイジー市の歴史博物館の倉庫で見つかったという。続いて「濃紫の着物を着た人形は、お茶の道具やたんす、長持ちなどの嫁入り道具と一緒に保存されていたが、左足が傷み、衣装もやや色あせていた。その後、人形交流の歴史を研究している中学教諭の夏目勝弘さん（愛知県豊川市）や奈良県などの働きかけで、里帰りが実現することになった。人形は来月初めに里帰りして修復されたあと、11 月ごろから、奈良県内に残る『青い目の人形』とともに一般展示される計画だ。一方、送り出す博物館側でも、今年 3 月から先月まで『ミス奈良』を展示し、日本の歴史や文化を紹介する特別展を開いた。」とある。

この「ミス奈良」に関しては、アイダホ州で発見され、修復のため一時里帰りすることになったが、人形の着物には和歌山県ゆかりの徳川家の「三つ葉葵」がくっきりとあり、全米各地を巡回中に「ミス和歌山」とすり替わったらしいという[78]。州側は「いまさら歴史の訂正はできない」と主張し、奈良県も“育ての親”の意向を尊重して受け入れを決めたという経緯がある[79]。つまり、本物の「ミス奈良」はネバダ州レノに「ミス和歌山」として所在しているのである[80]。

77　讀賣新聞「日米の人形交流新時代　黒い目　「ミス奈良」来月里帰り」（東京、1994 年 6 月 11 日）、10 頁によれば、五十八体の答礼人形のうち、36 体の行方が確認されたが、その後失われたものもあり、現存するのは 32 体だという。

78　こうした取り違えは他にも数多くあり、例えば、「ミス山口」とされる人形がニューメキシコ州の博物館で展示されているが、調査によると、これは「ミス佐賀」であり、本物の「ミス山口」はメリーランド州の美術館にあるという。朝日新聞「人形に託した９０年前の日米親善　郷土史家・井上さん研究　／山口県」（山口・1 地方、2017 年 8 月 16 日）。

79　讀賣新聞「日米親善人形“別人”だった　『ミス奈良』着物に和歌山ゆかりの『葵』紋」（大阪、1994 年 7 月 1 日）、19 頁。「ミス奈良」の紋は南北朝時代の武将、楠木正成の菊水紋のはずで、さらに調べたところ、本物はネバダ州立歴史博物館にあることがわかったという。

80　夏目勝弘『青い目の人形物語』（成工社、2008 年）、188-214 頁にも取り違えの情報や里帰りに関する情報が書いてある。

https://www.nvhistoricalsociety.org/2021/01/11/miss-wakayama/

ネバダ大学リノ校キャンパス内にある「ミス和歌山」（本物の「ミス奈良」）
Nevada Historical Society
Miss Wakayama, Nevada's Japanese Friendship Doll
2021/01/12 にアップロードされた YouTube の動画が紹介されている。
https://www.youtube.com/watch?v=ghFfTqg5e7M

では、アイダホ州ボイジーに存在している「ミス奈良」の正体は一体、何なのか。高岡美和子氏によれば、「この人形（「ミス神奈川」）は『ミス奈良』の名でアイダホ州ボイジーに残っていると私は考えている」という[81]。つまり、「ミス和歌山」が「ミス奈良」であり、「ミス奈良」と思われていたのが「ミス神奈川」なのである[82]。

なお、「ミス神奈川」については行方不明であり、Bill Gordon 氏の HP にも情報が掲載されていない。高岡美和子氏の著書によれば、「ミス神奈川」の元の贈呈先は「オレゴン州ユージーン　ウォーナー美術館」となっ

81　高岡美知子『前掲書』（注 40）、373 頁。

82　ところが「ボイジー市のものは、奈良懸と記された台にのっているものの、本体はおそらく和歌山のものだということです」とする文献もある。赤崎まき子編著『前掲書』（注 27）、79 頁。

ている。既にそのような名前の博物館は存在しないと思っていたが、オレゴン大学の敷地内にあるジョーダン・シュニッツァー美術館（Jordan Schnitzer Museum of Art）のマレー・ウォーナー東洋美術コレクションがそれに該当するようである。[83]

美術館そのものを検索して同美術館の HP の検索枠から “Japanese Friendship Dolls” とキーワード検索すると以下のような HP にたどり着くが、同美術館が所蔵しているのはどうやら「ミス福岡」であるようだ。

ミス福岡
https://jsma.uoregon.edu/events/lecture-japanese-friendship-dolls

以上のように、非常に複雑であるが、混乱の中で「玉突き現象」が発生し、答礼人形が入れ替わったままの状態で現在に至っている。以下に説明するように、米国が日本から答礼人形を受け取ったのち、米国内で巡回展を行っ

83　同美術館のパンフレットには「当館は 1933 年 6 月 10 日に開館しました。当時、建築 / 建築関連芸術学部の学部長であったエリス・F・ローレンス (Ellis F. Lawrence; 1914–46) によって設計され、ガートルード・バス・ウォーナーが 1921 年に亡夫を記念して寄贈した、3,700 点以上に及ぶ作品（マレー・ウォーナー東洋美術コレクション ; Murray Warner Collection of Oriental Art) を所蔵するために設立されました。当初のコレクションの大半はウォーナー夫妻が訪れ滞在した中国と日本の文化を代表する作品でした。）との説明がある。https://jsma.uoregon.edu/sites/jsma2.uoregon.edu/files/JSMA%20Japanese_0.pdf（最終アクセス日時：2021 年 7 月 6 日）。

た際に徹底した管理を行わなかったことが一番の原因である。取り違えの原因となった米国内における巡回展はおよそ半年の間に 479 の都市を訪れ、1 千回以上の歓迎会を数えたという[84]。ギューリック博士の著作には、米国に贈られた答礼人形が 6 つのグループに分けられて配付されたことや[85]、ニューヨークなど東海岸の都市での巡回展に関する記録があるものの、取り違えに関する記述はない[86]。現在何らかの製品を購入した場合についてくるシリアル番号のように、「ミス奈良」などと人形のどこかに名称を入れていれば、と思うと悔やまれる。

なお、取り違えについては、高岡美知子元武庫川女子大学教授が「人形自体には名前が一切書いてなく、また人形に必ずつけられた特製パスポートは人形の着物の袂に入れただけだったので、紛失したケースが多かった。そのため、どの人形がどの県の名前をつけられたものだったのかが分からなくなってしまったのである。そのうえ、米国の地に着いた 58 体の答礼人形は、最初の 1 年間はお披露目のために、送り先に着く前に米国国内各地を『巡業』して回った。そのために、さらにどの人形がどの州に行くものかが分かりにくくなり、結果として半数以上の人形が取り違えられ、本来行くべき州とは別の州に送られてしまったこともあるのである。」と指摘している[87]。

また、取り違えが発生したことについてはギューリック博士も認識しており、「親善人形が桑港到着以来、全米国漫遊終了に至る迄絶へず荷解き荷造りの手段を繰返したる結果、大いなる混雑を来し各人形を其名の付せる台に一々附着し置く能はざりし事実より、人形の身元に関し最も困惑なる一問題相生じ申候、人形の名は人形其ものに附き居らざりし結果、人形が一度其台を離るれば、其の正確なる名を確むる能はず困却仕候」「唯今

84　赤崎まき子編著『前掲書』(注 27)、47 頁。

85　米国内での巡回展を終えた後、日本が贈った答礼人形は、人形交換プログラムに関して特に協力的であった幾つかの州（オハイオ、ニューヨーク州には 3 体。その他、同プログラムに対して協力的であった州としてはペンシルバニア、マサチューセッツ州が挙げられている）に多く配分されたという。菊地昭男『前掲書』(注 26)、36 頁。

86　Sidney Gulick, *Dolls of Friendship : the story of a goodwill project between the children of America and Japan 2nd ed*, Friendship Ambassadors, Incorporated, 1997, pp. 75-112.

87　高岡美知子『前掲書』(注 40)、102 頁。

に至り日本にて撮影致し持参品と共に納めある原写真を見て、衣服の相違に依り少なくとも二・三の場合に人形が元来の台上に在らざることを知り申候」「此真相を日本人に御報告すべきや否や惑ひ居候、勿論来遊日本人が人形の永住所を訪問し、微細の点に注意すれば忽ち間違ひを発見致すべく候、本件に関し概略的声明を出したる方、大体に於て得策に非ずやと愚考中に御座候」といった内容の手紙を 1929 年 4 月 4 日に文部省に送ってきたという[88]。

以上のような経緯があった「ミス奈良」ではあったが、里帰りに関しては当時の新聞が報じていた。1994 年（平成 6 年）10 月 14 日の讀賣新聞によれば、「傷んだ人形の修復が、製作者の息子である人形師のもとで進められている。激動の歴史を生き抜いてきた人形は、“ 実家 ” にあたる奈良市で一般公開されたあと、新たな時代の人形大使として米国に戻る。」とあり[89]、人形の修復を行ったのが千葉県市川市の人形工房で、二代目松乾齋東光氏（当時 66 歳）であり、上述のビル・ゴードン（Bill Gordon）氏が提供する Friendship Dolls に関する HP においても “Maker of Ichimatsu Dolls ” として写真入りで紹介されている。修復に際して新聞社の取材に対しては、「人形の表情を変えずに修復するのが一番難しい。それにしても先代はいい仕事をしてますね」「子供のころから答礼人形の話は聞いていただけに、『お父さんの人形が見つかりましたよ』と言われた時はうれしかったですね」「日米間がぎくしゃくしがちな今だけに、人形を通じてお互いの理解が少しでも進んでくれたら」と答えている 。

人形は熊本県出身で、アイダホ州に住む通訳のカヨコ・タケダ・ジョンソンさんが 1993 年 1 月、州都ボイジーの歴史博物館の倉庫で見つけた。台座に「奈良県」の文字、日本人として発給されたパスポートに「ミス奈良」のサインがあり、タンスなどの嫁入り道具もあった。足や顔の一部が破損しており、現地の邦人らが「母国で修理を」と 1 ドル募金で里帰り運動を開始。奈良県のなら・シルクロード博記念国際交流財団も受け入れ準備にかかった。修復費は 20 万円であった。人形は全国の子どもたちの募金で

88　デジタル版『渋沢栄一伝記資料』第 38 巻、150-151 頁。

89　讀賣新聞「渡米の日本人形が里帰り　67 年目のわが家　千葉の “ 親族 ” が傷の手当て」(1994 年 10 月 14 日)。

製作されたことから、日米両国友好を願った当時の心を知ってもらおうと、県民の募金で賄い、新たに「新ミス奈良」も作ることになったという[90]。

この「青い目の人形」に関する銃後のストーリーは忘れ去られてはいけないし、将来的には平和教育の教材としても再び注目されるべきではないだろうか 。シャーリー パレントー『青い目の人形物語 (1) 平和への願いアメリカ編』の訳者である河野万里子さんが「訳者あとがき」に書いている言葉を最後に本節の終わりとしたいと思う。

戦後七十年とか、九十年前などというと、生まれてから十年前後しかたっていないみなさんには、想像もつかないぐらい昔の話に思えるかもしれません。でも人間の心や人々のありかたは、昔もいまも、国がちがっても、ああ同じなんだと胸がふるえることもたくさんあります[91]。（中略）「戦争は、人間が起こす最大のあやまちだ」といいます。「でも、はじまってしまったら止められない」とも。この物語を読んで、レキシーやおばあちゃんやジャックのような人たちを、現実に敵にしなくてはならなかった戦争のおろかさ、痛ましさに思いをめぐらして、ひとりひとりの命の重さ、平和の尊さについて、考えるきっかけにしてもらえたらと願っています[92]。

90　修復後の 10 月 26 日から 31 日まで、奈良県内に残っている「青い目の人形」4 体とともに奈良そごうで展示し、「ミス奈良」がアメリカに渡った昭和 2 年の 11 月に合わせて送別会が開催された。この奈良そごうでの展示に関しては、讀賣新聞「アメリカ帰り、美形あせず　日本人形『ミス奈良』展が開幕」（大阪、1994 年 10 月 25 日）が以下のとおり報じている。「67 年ぶりにアメリカから帰国、ゆかりの奈良県で修復された日本人形『ミス奈良』の帰国展（読売新聞大阪本社など主催）が 25 日、奈良市の『奈良そごう』で始まった。31 日まで。入場無料。四階特設会場には、渡米当時の美しさを取り戻した『ミス奈良』をはじめ、修復募金で購入した日本人形『新ミス奈良』、県内に残る昭和二年に来日した『青い目の人形』四体の計六体を展示。お年寄りらが懐かしそうに見入っていた。」。なお、里帰りした「ミス奈良」帰国展のパンフレットの写真は以下の資料にカラーで掲載してある（写真のキャプションには 1993 年（平成 5 年）とあるが、1994 年（平成 6 年）が正しい）。赤崎まき子編著『前掲書』（注 27）、13 頁。また、奈良県内において「青い目の人形」の展示が開催された記録は他にもあり、朝日新聞「『青い目の人形』一堂に展示　戦禍を逃れた 4 体　大和高田で」（1997 年 12 月 5 日）によれば、西吉野村立賀名生小の「パトリちゃん」、榛原町立伊那佐小の「マーガレットちゃん」、高田小、御所市立葛小（いずれも氏名不明とあるが、葛小の「青い目の人形」はのちにマーガレットちゃんと判明する）の 4 体すべてが 6、7 の両日、土庫病院平和委員会の主催で大和高田市幸町の県立広域地場産業振興センターにおいて「平和のつどい」（同つどい実行委員会主催）の関連行事として展示される。人形が一堂に集まるのは初めてであり、会場では映画「青い目の人形」も上映されたという。

91　シャーリー パレントー『前掲書』（注 47）、348 頁。

92　シャーリー パレントー『前掲書』（注 47）、350 頁。

「青い目の人形」・「答礼人形」関連略年表			
	「青い目の人形」関連	「答礼人形」関連	世の中の出来事
1926（大正 5）	「世界児童親善会」は「人形委員会」をアメリカ各地に設置して運動を始める		
1927（昭和 2）	[1/7] サイベリア丸横浜入港。以後、2 月末までに 青い目の人形約 1 万 2 千体が日本に到着 [3/3] 東京の日本青年館で歓迎式典開催 [3/8] 遅れていた「ミス・アメリカ」などと各州の 代表人形計 8 体が横浜に到着し、横浜の本牧 小で歓迎会を行う [5/19] 高田女子尋常高等小学校で、人形の伝達式が行われる	[11/10] 答礼人形 8 体がアメリカに向け横浜港を出港 [11/19] ホノルル着 [11/25」サンフランシスコ着 [11/27] サンフランシスコの金門学園で歓迎式 [12/6 ～ 8] 陸路の 7 体、ロサンゼルスで展示 [12/15] シカゴ着。ギューリック博士もともに出迎え [12/20] ワシントン着 [12/28] ニューヨーク着。この後運河経由の 4 体と合流 [1/6] ボストンで歓迎会	
1928（昭和 3）		1~7 月 全米 479 か所を巡回	
1931（昭和 6）		[11/11] 渋沢栄一没	9 月　満州事変
1933（昭和 8）			3 月　国際連盟脱退
1937（昭和 12）			[7/7] 盧溝橋事件（日中戦争はじまる）
1941（昭和 16）		日米開戦の後もノースカロライナ州立自然歴史博物館では「ミス香川」展示	[12/8] 真珠湾攻撃。対米英蘭宣戦布告
1943（昭和 18）	[2/19]「青い目をした人形憎い敵だ 許さんぞ」との記事が毎日新聞に掲載される		
1945（昭和 20）			[8/5] 敗戦
1954（昭和 29）	パトリ発見（現在は奈良県五條市の賀名生（あのう）の里歴史民俗資料館で展示）		

	「青い目の人形」関連	「答礼人形」関連	世の中の出来事
1973（昭和 48）	[3/15] NHK で「人形使節メリー」を放映		
1982（昭和 57）	マーガレット発見（奈良県の旧伊那佐小学校で発見、現在は宇陀市教育委員会教育室長で保管）		
1983（昭和 58）	[11/12]「青い目をしたお人形は」テレビドラマ化		
1985（昭和 60）	[夏] 武田英子「写真資料集―青い目の人形」出版		
1987（昭和 62）	「青い目の人形」来日 8 周年を記念して、ギューリック 3 世夫妻が、保存校などに 12 体の「新・青い目の人形」を寄贈		
1988（昭和 63）	[夏] 横浜そごうを皮切りに、半年間にわたり全国 10 か所で「お帰りなさい答礼人形――青い目の人形交流展」(国際文化協会、朝日新聞社など主催)		
1991（平成 3）	[6/22]「ギューリック 3 世家族を日本に招く会」(兼高かおる会長) の招きに応じ 3 世が来日		
1993（平成 5）		[1 月] アイダホ州ボイジー市の州立歴史博物館の倉庫で「ミス奈良」が発見される	
1994（平成 6）	[10/25~10/31] 奈良そごうで、奈良県内に残っている 4 体の青い目の人形とともに「ミス奈良」を展示		
2004（平成 16）	高岡美知子『人形大使―もうひとつの日米現代史』（日経 BP 出版センター、2004 年）出版		
2011（平成 23）	［4 月］2011 年（平成 23 年）3 月 11 日に発生した東日本大震災の際、陸前高田市の気仙小の津波に流された金庫内から青い目の人形「スマダニエル・ヘンドレン」が発見される		
2021（令和 3）	帝塚山大学法学部国際法・平和学ゼミが冊子『奈良県に遺された 4 体の「青い目の人形」―渋沢栄一とギューリック博士が試みた日米親善―』を作成		

（4）ノーベル平和賞候補となった渋沢栄一とその思想

1840年3月16日、現・埼玉県深谷市血洗島に父市郎右衛門、母栄の三男として生まれた渋沢栄一は、第一国立銀行（現在のみずほ銀行）など数多くの企業を設立し、「日本の資本主義の父」と呼ばれている。2024年度前半に新しくなるとされている新一万円札の顔でもあり、2021年（令和3年）2月から放送されているNHK大河ドラマ「青天を衝け」は渋沢栄一を主人公としているなど、日本は渋沢ブームに沸いている。

渋沢栄一はまた、道徳経済合一説を唱え、女子教育に対する援助を行うなど[93]、現在でいうところの社会起業家としての先駆者ともいえる。現代の社会は、企業に対して「企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）」を求め、また、国連が設定し、2030年までに達成すべきとされている17の目標及び169のターゲットが定められた「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Develioment Goals）」など企業にとっては重要な責任や目標が課せられているが、渋沢栄一は企業人としてこれらに対していち早く参画していたといえよう。

上述したように、1927年（昭和2年）に日本国際児童親善会を設立し、アメリカの人形（青い目の人形）と日本人形（答礼人形）を交換し、親善交流を深めることに尽力した。

渋沢栄一に関する文献を紐解けば、青い目の人形に関する記述があるものも散見されるが、意外と少ないように思える。渋沢がこうした活動を行ったのも、日米親善そして世界平和のためであるといえる。大谷まこと『シリーズ福祉に生きる　渋沢栄一』には渋沢の思想が様々な彼の言葉を引用する形で紹介されているが、例えば、「天より人を視れば、みな同じく生みしところのものである。ゆえに四海の人びとはみな兄弟であるから、人びと相親しみ、相愛して、衣食住を営むは、天に対する務めである[94]」といった言葉や、「人が社会の一員として立つ以上、共生存存ということもまた

93　土屋喬雄『渋沢栄一　新装版』（吉川弘文館、1989年）、267頁。東京女学館や日本女子大学校をはじめとして後に両校の校長となる他、およそ20に及ぶ女学校に対して援助を与えたという。

94　大谷まこと『シリーズ福祉に生きる　渋沢栄一』（大空社、1998年）、130頁。

人類自然の性情であらねばならぬ[95]」といった言葉は、排日移民法によって悪化した日米関係を何とか回復させようと奔走した渋沢の人と心情をよく表していると言えるのではないだろうか。

また、渋沢栄一は日本放送協会のラジオにも出演し、世界平和への思いを熱く語ったこともある。渋沢は、戦争は健全財政を危うくするという観点から、明治初期の台湾出兵から戦争反対の非戦論を唱えてきた[96]。世界に地殻変動を起こし、想像を絶する人的・物的被害をもたらした第一次世界大戦の影響を受け、国際平和の実現に何をすべきかを知識人を集めて一緒に議論した。例えば、「帰一教会宣言」(1916 年 3 月) の中には、「国際道徳を尊重し、世界の平和を擁護し、以て立国の大義を宣揚すべし」と書かれているが、渋沢の考えが色濃く反映されている[97]。渋沢は、軍備負担が納税者に経済的苦痛を与えるだけでなく、さらには道徳の伴わない物質文明が国際紛争の原因となり、軍備拡張の理由となる。したがって国民道徳が発達してその範囲を国際間に広げれば、真の平和が実現されることになり、軍備の必要がなくなると語った[98]。

渋沢栄一が生誕した埼玉県深谷市では渋沢ブームで賑わいを見せている

95　同上、131 頁。
96　木村昌人『前掲書』(注 31)、307 頁。
97　木村昌人『前掲書』(注 31)、307 頁。
98　木村昌人『前掲書』(注 31)、307 頁。

1909 年（明治 42 年）、69 歳になった渋沢栄一は実業の第一線から退き、1916 年（大正 5 年）には完全に引退した。以後の渋沢は各種社会事業や民間外交にひときわ注力した。上述したラジオ放送に関しては、86 歳の時、1926 年（大正 15 年）から 1930 年（昭和 5 年）まで、第一次世界大戦終結日（国際平和記念日）である 11 月 11 日に、毎年ラジオ放送で平和を訴える演説を行った[99]。また、昭和 5 年 6 月 29 日には、ラジオ連続国際講座第十三講「日本と太平洋問題」米田実博士及講座終了の辞として、渋沢栄一が会長として「平和に対する努力」をいう講演を行った[100]。こうした活動が評価されて、渋沢栄一は 1926 年（86 歳の時）と 1927 年（87 歳の時）にノーベル平和賞に推薦されている[101]。

高崎経済大学の吉武信彦教授の論文「ノーベル賞の国際政治学―ノーベル平和賞と日本：第二次世界大戦前の日本人候補―」によれば、1926 年の推薦時においては、ハワイ大学教授（日本言語・歴史）の Tasuku Harada（原田助）氏から、そして 2 通目は当時の加藤高明首相および幣原喜重郎外相からであった[102]。後者について、その内容は「以下の署名者は、日本国東京の子爵渋沢栄一が、これに添付した彼の生涯に関する概要に簡単に要約されているように、国際的な親善と平和のために、特に日米間で行なった偉大な活動を顕彰して、彼の名前を栄えある 1926 年ノーベル平和賞のためにあなた方に提出することを謹んで請うものである」と記すものであり、当時の有力な政治家や学者が署名を行った[103]。続く 1927 年の

99　デジタル版『渋沢栄一伝記資料』第 37 巻、309 頁。

100　竜門雑誌　第 504 号・第 69-74 頁昭和 5 年 9 月（デジタル版『渋沢栄一伝記資料』第 37 巻、305-309 頁。）。

101　渋沢栄一より以前にノーベル平和賞に推薦されていた唯一の人物は、法学者及び社会学者として活躍した有賀長雄（1860 ～ 1921 年）である。吉武信彦「ノーベル賞の国際政治学―ノーベル平和賞と日本：第二次世界大戦前の日本人候補―」『地域政策研究』（高崎経済大学地域政策学会）第 113 巻　第 2・3 合併号（2010 年 11 月）、3 頁。

102　渋沢栄一に関する文書は、デジタル版『渋沢栄一伝記資料』として公益財団法人渋沢栄一記念財団の HP から利用できるようになっている。https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryo/digital/main/index.php（最終閲覧日：2021 年 7 月 6 日）。

103　アメリカからも 2 通の推薦状が提出されたという。自身もノーベル平和賞に推薦された、インディアナ大学とスタンフォード大学で学長を務めた David Starr Jordan 氏（1851 ～ 1931 年）からと、ハワイ大学総長を務めていた A.L.Dean（任期 1914 ～ 1927 年）からの推薦状であった。

推薦に関しては、当時の若槻礼次郎首相と幣原喜重郎外相の連名の推薦文に両院議長など主要な政治家が７名署名したものがノーベル委員会に届けられたが、その内容は渋沢栄一を強く推薦する内容の文章であった[104]。それによれば、まず第１に、渋沢の活動が日米関係に限定されず、世界平和にとっても大きな意味をもつことを強調していた[105]。「国際平和・理解のための渋沢子爵の活動は、地理的に比較的限定されており、主にアメリカ合衆国と日本との間の関係にかかわっている。しかしながら、これら二大国間の平和の維持が太平洋の平和を意味することを思い起こし、さらに太平洋の平和と世界の平和との間の緊密なつながりを考えると、渋沢子爵が日米間の友好と健全な理解の促進のために行なったように活動することで、世界平和のために最高の真の活動を行なったのは明白であろう」。第２に、渋沢を選ぶことが適切であると信じる考慮点として、彼が東洋出身者であることを挙げている。「ノーベル平和賞はこれまで西洋の者にだけ授与されてきた。国際平和へのその高貴な献身が東アジアで極めて広く評価されている渋沢子爵のような東洋の指導者を選ぶことは、東洋への特別の敬意と見なされ、人類の連帯という最も幸福な結果を生みだすことになろう[106]」。

しかしながら、選考は厳しく行われ、推薦状には「大きな誇張」があることや、渋沢栄一本人が英語を苦手としていたために「渋沢が日米の問題で重要な役割を演じることができたというのは不可能である」などと評

吉武信彦「前掲論文」（注 101）、7-8 頁。

104　吉武信彦「前掲論文」（注 101）、6 頁。

105　実際にノーベル平和賞選考委員会の HP から各種資料を閲覧することができる。https://www.nobelprize.org/nomination/archive/show_people.php?id=8496（最終閲覧日：2021 年 7 月 6 日）。

106　吉武信彦「前掲論文」（注 101）、9 頁。

価されたため[107]、受賞には至らなかった[108]。もし受賞していたらならば、1949 年に物理学賞を受賞した湯川秀樹博士に先んじて「日本人初のノーベル平和賞受賞者」になっていた。

以上のような渋沢栄一の晩年であった。渋沢は、満州事変の発生したのちの 1931 年（昭和 6 年）11 月 11 日に東京・飛鳥山の自邸で 91 歳の生涯を閉じた。

渋沢栄一氏　関連略年表

年月日	年齢	出来事
1840 年（天保 11）年 3 月 16 日	誕生	現・埼玉県深谷市血洗島に、父市郎右衛門、母栄の三男として生まれる。幼名市三郎。家業は農業、養蚕、製藍であった。
1847(弘化四) 年	8 歳	従兄尾高新五郎 (惇忠) に漢籍を学ぶ。※経書・歴史となっている略年譜もある
1854(安政元) 年	14 歳	家業に従事する。
1856(安政 3) 年	16 歳	御用金納付の件で、父の名代として岡部陣屋に出頭、封建制の矛盾を深く感じる。
1858(安政五) 年	18 歳	千代 (尾高新五郎の妹) と結婚。
1861(文久元) 年	21 歳	江戸に出て、海保漁村に学び、剣客千葉道三郎の道場に通う。
1863（文久三）年	23 歳	春、再び江戸へ出で海保塾及び千葉塾に入る。9 月、一橋家用人平岡円四郎と出会う。10 月、攘夷を目的として高崎城乗っ取り、横浜外国人居留地焼き討ちを計画するが、中止し渋沢喜作（渋沢栄一の従兄）と共に京都に向かう。

107　渋沢栄一は、英語をほとんど理解できなかったので秘書の手を煩わすことになったという。通訳兼代筆者は、渋沢の 4 回にわたる米国訪問、韓国行き、中国行きなど海外渡航の全てに同行した頭本元貞、渋沢の秘書として英文の手紙を書いた小畑久五郎の 2 名であった。木村昌人『前掲書』（注 31）、309-310 頁。また、渋沢は、国際連盟協会の会長も務めたが、就任に際し、以下のような発言をしている。「国際聯盟協会といふ名を以て組立てることになり、・・・（中略）・・・海外の事は一も知らん、また外国語は英書も読めず、仏蘭西語も僅かに五十にも足らん位しか知らないやうな私が、そんな事に携はることではないと思つて、頻りに辞退しましたけれども、どうも私が絶対に辞すると、その日の国際聯盟協会の組織を妨げさうでございましたので、マア少し情に捉はれて「今日だけをお引受けするが到底これは私には出来ませんぞ」と申して、その場で会長をお引受けしたやうに記憶いたします。」竜門雑誌　第 504 号・第 69-74 頁昭和 5 年 9 月（デジタル版『渋沢栄一伝記資料』第 37 巻、308 頁）。

108　吉武信彦「前掲論文」（注 101）、10-11 頁。

年月日	年齢	出来事
1864（元治元）年	24 歳	2 月、一橋慶喜に仕える。6 月、平岡円四郎暗殺される。7 月、蛤御門の変。8 月、四国連合艦隊が下関を砲撃。2 月、天狗党投降。
1865（慶応元）年	25 歳	3 月、一橋家歩兵取立御用掛となる。8 月、勘定組頭並となる。
1866（慶応 2 年）	26 歳	9 月、慶喜の徳川宗家相続により幕臣となる。第二次長州征討。12 月、将軍慶喜の弟民部大輔昭武に従い万国博覧会参加のため、フランスに渡航。
1867（慶応 3 年）	27 歳	1 月、徳川昭武に従って、パリ万博使節団の一員としてフランスへ出立。3 月、パリ到着。昭武の欧州歴訪 (スイス、オランダ、ベルギー、イタリア、イギリス) に従う。10 月、大政奉還。
1868（明治元）年	28 歳	1 月、幕府崩壊の報を受ける。9 月、フランスより出国。11 月、帰国。2 月、静岡で慶喜に拝謁。静岡に住した。
1869（明治 2）年	29 歳	1 月、静岡藩で商法会所を設立 (9 月、常平倉となる)。11 月、東京に出る。明治政府の民部省租税正となる。
1870（明治 3）年	30 歳	8 月、大蔵少丞となる。閏 10 月、官営富岡製糸場事務主任となる。
1871（明治 4）年	31 歳	5 月、大蔵権大丞となる。8 月。大蔵大丞となる。
1872（明治 5）年	32 歳	2 月、大蔵少輔事務取扱となる。
1873（明治 6）年	33 歳	5 月、大蔵大輔井上馨辞任、渋沢も大蔵省を辞める。6 月、第一国立銀行開業、総監役となる。
1874（明治 7）年	34 歳	1 月、抄紙会社 (現・王子製紙会社) の社務を委任される。東京府より共有金取締を嘱託される。
1875（明治 8）年	35 歳	8 月、商法講習所 (現・一橋大学) が創立される。第一国立銀行頭取となる。
1876（明治 9）年	36 歳	4 月、東京会議所行務科頭取。
1877（明治 10）年	37 歳	2 月、西南戦争始まる。7 月、択善会 (後に東京銀行集会所) 創立。
1878（明治 11）年	38 歳	3 月、東京商法会議所創立、会頭となる。
1879（明治 12）年	39 歳	7 月、グラント将軍 (元・第 8 代米国大統領) 来日、東京接待委員長となる。東京海上保険会社を設立。
1880（明治 13）年	40 歳	1 月、博愛社 (現・日本赤十字社) 創立、社員となる。
1881（明治 14）年	41 歳	日本鉄道会社を設立。

年月日	年齢	出来事
1882（明治 15）年	42 歳	長女・歌子が穂積陳重と結婚。千代夫人死去。10 月、日本銀行が開業する。
1883（明治 16）年	43 歳	伊藤かねと再婚。※伊藤兼子という記録もある
1884（明治 17）年	44 歳	10 月、日本鉄道会社理事委員 (後に取締役) となる。
1885（明治 18）年	45 歳	10 月、日本郵船会社創立。東京瓦斯会社創立。11 月、東京市養育院院長となる。
1887（明治 20）年	47 歳	10 月、日本煉瓦製造会社創立。2 月、帝国ホテル創立、発起人総代となる。
1888（明治 21）年	48 歳	9 月、東京女学館を開校、会計監督に就任する。
1889（明治 23）年	49 歳	1 月、東京石川島造船所創立、委員となる。2 月、大日本帝国憲法公布。
1890（明治 23）年	50 歳	9 月、貴族院議員となる。11 月、第一回帝国議会開会。
1891（明治 24）年	51 歳	2 月、東京手形交換所の委員長となる。
1892（明治 25）年	52 歳	6 月、東京貯蓄銀行の取締役となる。
1893（明治 26）年	53 歳	王子製紙取締役会長。日本郵船取締役となる。
1896（明治 29）年	56 歳	2 月、日本勧業銀行設立委員となる。
1900（明治 33）年	60 歳	3 月、日本興業銀行設立委員となる。5 月、男爵に叙せられる。
1901（明治 34）年	61 歳	4 月、日本女子大学校開校、会計監督となる。
1902（明治 35）年	62 歳	5 月、欧米視察に出る。6 月、ルーズヴェルト大統領と会見。
1907（明治 40）年	67 歳	2 月、帝国劇場設立。
1909（明治 42）年	69 歳	8 月、渡米実業団団長としてアメリカに渡る。9 月、タフト大統領と会見。
1915（大正 4）年	75 歳	日米親善のため渡米。ウィルソン米国大統領と会見。
1916（大正 5）年	76 歳	7 月、第一銀行頭取等を辞め、実業界から引退。9 月、渋沢栄一述・梶山彬編『論語と算盤』を刊行。
1918（大正 7）年	78 歳	1 月、渋沢栄一著『徳川慶喜公伝』(竜門社) を刊行。
1920（大正 9）年	80 歳	9 月、子爵に叙せられる。
1921（大正 10）年	81 歳	10 月、ワシントン会議視察をかねて渡米。
1923（大正 12）年	83 歳	9 月、関東大震災。大震災善後会創立、副会長となる。
1925（大正 14）年	85 歳	10 月、渋沢栄一口話・尾立維孝筆述『論語講義』を刊行。

年月日	年齢	出来事
1926（大正 15）年	86 歳	8 月、日本放送協会創立、顧問となる。日本国際児童親善会会長。この年から昭和 5 年まで、第一次世界大戦終結日である 11 月 11 日に、毎年ラジオ放送で平和を訴える演説を行う。日本の民間経済外交の組織化と、生涯を通じて国際交流に力を入れた功績を評価され、ノーベル平和賞候補となる。
1927（昭和 2）年	87 歳	3 月、日米親善人形歓迎会を主催。日米国際児童親善会会長として日米の人形の交換につとめる。二度目のノーベル平和賞候補となる。
1928（昭和 3）年	88 歳	7 月、日本航空輸送会社の創立委員長となる。
1931（昭和 6）年	91 歳	4 月、日本女子大学校長就任。11 月 11 日飛鳥山自邸にて永眠。

（5）その後の人形交換プログラム

「青い目の人形」によって戦争を回避することはできなかったが[109]、友情人形を贈り合って平和を推進するというプログラムが現代において行われている。そうした意味では、「青い目の人形」と「答礼人形」が交換されたことは決して無駄に終わったと評価することはできない。例えば、武田英子『青い目の人形　写真資料集』は「第 4 章　人形たちは　いま」というページを割き、いかに人形交換プログラムが大切であるか、その意義について現代を生きる私たちに伝えようとしている[110]。その他、福岡県志摩町にある可也小学校のように新しく人形交換を行った答礼人形の保存校や、愛知県北設楽郡田峯町の田峯小学校のように、子どもたち全員がアメリカ訪問を行うといった学校もある[111]。

渋沢栄一が 2024 年からは新一万円札の顔に決定していることや NHK 大河ドラマ「青天を衝け」の人気もあり、生誕の地である埼玉県の県立歴史と民俗の博物館（埼玉県さいたま市大宮区高鼻町 4-219）では特別展「青天を衝け　渋沢栄一のまなざし」が行われている[112]。また、見どころのひとつとして埼玉県内に現存する 12 体の「青い目の人形」を初めて一堂に集めた展示を行っている他、米国サウスカロライナ州にある答礼人形「秩父嶺玉子（ちちぶねたまこ）」の複製も併せて展示されている[113]。

109　終戦には広島と長崎に投下された原子爆弾が大きな影響を及ぼしたが、原爆ドーム（広島県産業奨励会館）は、昭和 2 年春、広島県に配分された青い目の人形 326 体を迎え、盛大な歓迎会を催した会場であった。菊地昭男『前掲書』（注 26）、43 頁。

110　武田英子『前掲書』（注 13）、50-69 頁。

111　赤崎まき子編著『前掲書』（注 27）、90-93 頁。インターネットで調査したところ、田峯小学校は平成に入ってからも現地との交流を継続的に行っているようである。＜田峯小学校　青い目の人形・子供歌舞伎の小学校です＞　http://www.kitashitara.jp/damine-el/2011/11/post-4.html（最終アクセス日時：2021 年 7 月 6 日）。

112　朝日新聞「「渋沢の国際交流、人形が光　県立歴史と民俗の博物館で特別展　／埼玉県」（埼玉首都圏・1 地方、2021 年 3 月 31 日）。

113　渋沢栄一が名付け、今回の展示用に写真をもとに岩槻の人形制作会社が複製したという。高さは 80 センチほどである。その他、渋沢栄一が名付け親となった人形は、日本代表の倭日出子（やまとひでこ）の他、長崎、宮崎、佐賀、新潟、静岡、東京府・市、山梨、茨城、北海道、沖縄、青森、群馬、栃木の各人形であった。埼玉県立歴史と民俗の博物館編『NHK 大河ドラマ特別展　青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～』（埼玉県立歴史と民俗の博物館編、2021 年）、121 頁。

https://saitama-rekimin.spec.ed.jp/
埼玉県の県立歴史と民俗の博物館 HP
集められた 12 体の「青い目の人形」や
答礼人形である「秩父嶺玉子（ちちぶねたまこ）」
の写真を見ることができる。
（2021 年 4 月 25 日現在）

The Charleston Museum では
過去の展示として答礼人形「秩父嶺玉子（ちちぶねたまこ）」の写真や
日本で行われた歓迎会の様子を撮影した写真を見ることができる。
https://www.charlestonmuseum.org/news-events/storeroom-stories-miss-saitama-1927/

2015 年 5 月 30 日には、渋沢栄一と米国人宣教師シドニー・ギューリックの子孫が 30 日、北区の渋沢史料館で初めて対面した。再び人形を贈りあい、両国の友好を再確認したとの報道があった。当日は、ギューリックの孫で、29 年前から日本の小学校へ青い目の人形を贈っているギューリッ

ク３世さん（78）が人形「サラ」を、渋沢の曽孫の雅英さん（90）が市松人形「渋沢さくら」を贈りあった。渋沢ゆかりの私立川村小学校（豊島区）の児童が「人形を迎える歌」の合唱を披露したという。対面は、当時、市松人形の制作を請け負った人形店の関係者の仲立ちにより実現した。ギューリック３世さんは「雅英さんは温かい方で、お会いできてうれしかった。人形は新たな友好のシンボルとして、米国の博物館に展示したい」と話した。雅英さんは「改めて平和を守るための努力の大切さを感じている」と語った[114]。ギューリック博士の孫にあたるギューリック３世さんは、米国在住の数学者（メリーランド大教授）であり、祖父の遺志を継ぎ、1986 年から日本全国の小学校に人形を贈る活動を続けている[115]。

また、朝日新聞「青い目の人形寄贈、祖父の志継ぎ２０年　米の夫妻、小学校訪問　深谷　／埼玉県」（埼玉、2019 年 5 月 28 日）によれば、戦前、日米関係の緊張を和らげるために多くの「青い目の人形」を米国から日本の子どもに贈った祖父にならい、２０年前から青い目の人形を贈り続ける米国人男性が２７日、寄贈先の深谷市立八基（やつもと）小学校（笠原直史校長）を妻と訪問した。夫妻は人形交流の歴史を児童に語り、児童らは戦前に作られた「人形を迎える歌」を合唱して歓迎した、という[116]。

2019 年 8 月 7 日の讀賣新聞（西部夕刊）には、「『平和の象徴』米から人形　長崎の児童に」と題して、平和運動に取り組む米オハイオ州・ウィルミントン大学平和資料センターのメンバーが７日午前、長崎市の山里小学校の学童クラブを訪れ、「平和の象徴」として人形を贈ったことが報じられている。今回は、同センターが地元住民の協力で約１００体の「抱っこ人形」を製作。同市の市民団体「長崎親善人形の会・瓊子（たまこ）の会」が「令和の人形交流」として橋渡ししたという。また、一行は同日、長崎市の城山小でも贈呈式を行い、９日には、青い目の人形「エレン・Ｃ」を

114　讀賣新聞「日米友好　証しの人形　８８年前に交換　子孫が初対面」（東京、2015 年 5 月 31 日）。

115　讀賣新聞「『青い目』『市松』88 年前に贈り合い　海越える親善人形　再び　米宣教師と渋沢栄一が尽力　子孫きょう面会」（東京、2015 年 5 月 30 日）。

116　朝日新聞「青い目の人形寄贈、祖父の志継ぎ２０年　米の夫妻、小学校訪問　深谷　／埼玉県」（埼玉・１地方、2019 年 5 月 28 日）。

保管している長崎県平戸市の市立平戸幼稚園を訪れるという[117]。

「青い目の人形」の重要性を想起させる取り組みは他の形でも存在し、2015 年 11 月 15 日の朝日新聞は、中央大学の学生が同年同月 14 日から大阪で始まった日本民間放送連盟などが主催する「『地方の時代』映像祭」において同大の FLP ジャーナリズムプログラムの学生が作った「青い目の人形プロジェクト」が奨励賞を受賞したことを報じるものである[118]。

また、「青い目の人形」を題材にした紙芝居を通じて平和教育が行れている。千葉県館山市の松苗禮子さん（79）は、美術の教員時代に「青い目の人形」について知り、語りの台本を書いたこともあるといい、2014 年にそれを知った紙芝居作家の依頼で、今度は絵を描き、館山市立博物館で紙芝居を演じた[119]。

以上は「青い目の人形」のその後のプログラムの一端に過ぎないが、所縁のある人物や民間団体などによって草の根の人形交流による国際理解や平和教育が継続されてきていることがわかる。

117　讀賣新聞「『平和の象徴』米から人形　長崎の児童に」（西部夕刊、2019 年 8 月 7 日）。

118　その内容は、檜原村立檜原小（東京都西多摩郡）に残る「パティ」と八王子市立第八小の「メアリー」を取り上げ、米国に住むギューリックさんの孫や、日本側の受け入れ責任者だった実業家・渋沢栄一の孫を訪ねてインタビューを行い、小学生のころに学校の入り口で人形を踏まされたという日の出町の男性の話や、「青い目の人形」の劇を演じる第八小の児童たちの姿も描いた、というものである。朝日新聞「中大生、戦争の記憶を映像化　２作品、コンテスト高評価　／東京都」（多摩・１地方、2015 年 11 月 15 日）。

119　朝日新聞「青い目の人形守った証し　戦前・戦中に思いはせ紙芝居　館山の松苗さん上演　／千葉県」（千葉全県・２地方、2015 年 8 月 11 日）。紙芝居の主役は現在の館山市立館山小に届いた「メリー」。高さ４０センチ。松苗さんの先輩女性教員が戦中、校長からひそかに託されて自宅に持ち帰り、隠し通した。

提案　＜本冊子の平和教育への活用方法＞
帝塚山大学法学部国際法・平和学ゼミ

・提案①　渋沢栄一氏やギューリック博士の人物像や人形交換プログラムを実施するに至った歴史的背景（とくに 1920 年代の日米関係）について探究する。
・提案②　「青い目の人形」と答礼人形のいずれかひとつを選択した上で、どのようにして戦禍をくぐり抜けたかについて探究する。
・提案③　自分の在住する県に何体の友情人形が送付され、何体が戦禍をくぐり抜けて遺されたか。また、「青い目の人形」を遺すために関与した人々はどのような想いで人形を残したのかについて探究する。
・提案④　自分の在住する県から米国に贈られた答礼人形が現在、どのような経緯を経て、どこに存在しているかについて探究する。
・提案⑤　「青い目の人形」あるいは答礼人形になったつもりで当時の状況について人形目線の一人称で語る。
・提案⑥　もし戦時下の学校に児童・生徒として在籍していた場合、「青い目の人形」対してどのような気持ちを持つと思うか、また、処分に賛成していたと思うかディスカッションを行う。
・提案⑦　地域の公立図書館などに行き、当時の新聞を調べ、友情人形が日本に到着した時の新聞記事について探究する。
・提案⑧「青い目の人形」の服の修復案（デザイン）を考え、それを契機として人形交換プログラムの歴史的背景と戦争や平和について探究する。
・提案⑨「青い目の人形」が遺された場所に残された戦禍の爪痕（空襲被害や戦争遺跡）について探究する。
•提案⑩　「青い目の人形」をテーマとした紙芝居を作成し、プレゼンテーションを行う。高校生以上は可能ならば英語で行う。
・提案⑪　人形交換プログラムについて劇の台本を書き、配役を決めた上で実際に演じたり、You tube などを活用して発信する。
・提案⑫　「青い目の人形」をテーマとした人形劇を実施する。
・提案⑬　人形交換プログラムについて英語で書かれた本を読み、読書感想文やレポートを作成する。
・提案⑭　現代においても行われている人形交換プログラムについて探究し、発表する。
・提案⑮　国際理解を推進し、平和を促進するために行われた人形交換プログラムのどういった点が優れているのかについて議論し、発表する。
・提案⑯　人形交換プログラムのような相互理解のためのイベントを企画立案し、文化祭などで実施する。

・提案⑰　自分の住んでいる自治体に遺されている人形の贈り主や答礼人形が贈られた米国の街を実際に訪問し、現地の人々と国際交流を行い、国際親善を図る。
・提案⑱　（教員が）「青い目の人形」をテーマとした授業プランを作成し、実際に実施した後、検討会を行うといった研究授業を行う。

以上の提案に関しては５月に帝塚山大学国際法・平和学ゼミにおいてディスカッションを行った。

国際法・平和学ゼミで「青い目の人形」の平和教育への活用に関するディスカッションを行う学生たち（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、不織布マスクに加え、フェイスガードをしています）

なお、以上のような人形交流や人形をテーマとした取り組みの他、Bill Gordon 氏の HP ではとりわけ以下の３つがとても重要なインパクトを日米の子どもに与えているとして紹介されている。

Three programs have had a very significant impact on the lives of children in Japan and America:

① Mukogawa Fort Wright Institute - Since 1993, this organization has sent over 1,000 Japanese dolls to schools in every state of the US.
② Sidney and Frances Gulick - Following in the footsteps of his grandfather, Sidney Gulick, 3d, and his wife Frances have sent many American dolls to Japanese schools since 1986.
③ Urayasu Friendship Doll Exchange Association - Inspired by Dr. Gulick's 1927 Friendship Doll Mission, residents of Urayasu City vow

never to repeat war, and they launch a movement to send dolls to children worldwide with the formation of the Urayasu Friendship Doll Exchange Association. In addition, junior high school students, as a part of international understanding education, make hand-made dolls, kimonos, and passports; attach letters; and send the dolls.

また、大変興味深いのは、近年になってから「青い目の人形」や答礼人形が発見されることがあるという事実である。2008 年には秋田県湯沢市でも「青い目の人形」が確認されたというニュースもあった。福島在住の遠藤良子さんの実家から、湯沢東小学校で用務員をしていた祖母が図工室の隅においておいたものを戦後、用務員の仕事を継いだ父親が家に持ち帰ったという[120]。京都府でも現存するのは 7 体とされてきたが、2016 年春に京都市内の民家の押し入れの中から 8 体目が発見された[121]。

答礼人形については、讀賣新聞 2014 年 8 月 7 日の「『ミス愛知』見つかる　87 年前渡米『平和の人形』」と題する記事によれば、1927 年に日本へ贈られた「青い目の人形」のお返しとして、同じ年に日本からアメリカへ渡った答礼の市松人形 58 体のうち「ミス愛知」とみられる人形が米国ミネソタ州に現存していることが、人形を入手した米国の収集家から青い目の人形の研究をしている愛知県豊川市の元教員夏目勝弘さん（当時 72 歳）への連絡で判明したという[122]。

さらに驚くべきは、陸前高田市の気仙小の遺された人形「スマダニエル・ヘンドレン」である。この「青い目の人形」は、戦後、校長室の金庫に保管されてきたが、東日本大震災の際に校舎が震災の津波にのまれ、1 カ月

120　朝日新聞「湯沢で新たに 1 体確認　実家の「青い目の人形」鑑定　福島在住・遠藤さん／秋田県」（秋田全県・2 地方、2008 年 3 月 8 日）。

121　朝日新聞「平和の願い、込めた人形　府内 8 体目きょうから公開　立命館大　／京都府」（京都市内・1 地方、2016 年 08 月 02 日）。

122　讀賣新聞「『ミス愛知』見つかる　８７年前渡米『平和の人形』」（中部、2014 年 8 月 7 日）。記事によると、2013 年 10 月にミネソタ州在住の日本人形収集家アラン・スコット・ペイト氏から「オークションで入手した」というメールが届き、背中には５８体のうちミス愛知を含む５体を製作した人間国宝の人形作家・平田郷陽のサインがあった。残る 4 体の所在は分かっているためミス愛知とみられることが判明したという。

後に校舎裏で見つかった金庫を開けた際に発見されたという[123]。まさに戦禍と震災による津波に耐え抜いた奇跡である。

こうした近年における「青い目の人形」の発見は、人形からの何らかのメッセージなのであろうか。「青い目の人形」に魅せられて研究をすすめ、『人形大使』を著した高岡美知子氏は、「答礼人形は、日米関係 77 年の歴史の『光と影の部分を語る生き証人』である。この 1927 年の人形交流の精神は終わっていないし、『脈々として日米両国で受け継がれている』私はそう信じている」と語っている[124]。

また、赤崎まき子編著『人形たちの愛は海をこえて：よみがえる青い目の人形と答礼人形』には、「青い目の人形」研究の第一人者である武田英子氏の言葉が紹介されてあるので、それを最後に本冊子を終わりたいと思う。

武田さんにとって、とりもなおさず人形は、時代を問いなおす道しるべでした。今では保存されてきた青い目の人形の話は、どこか「美談」に近いものがあります。そのことに彼女は危惧を抱いています。青い目の人形がたどってきた歴史を、正確に冷静に検証することなく、心あたたまる話、美談とだけ受けとめてしまっていいのだろうか？状況が変われば、再びあの時の二の舞になりはしないのだろうか？と。

あんなに大歓迎して迎えた青い目の人形たちを、スパイ呼ばわりして迫害した日本人。そして経済大国となって平和を謳歌するなかで、再びもてはやすようになった日本人。人形の身のうえは、戦争の狂気と日本人の思想性、一貫性のなさを、鏡に映し出したようなものであり、人形の歴史をたどることは、そのまま、日本人の精神史の一面をさぐることだと、彼女は淡々と語ります。そして、それこそが、十年以上を費やした取材を通して得た、重要な問題点だ、と[125]。

123　朝日新聞「戦争･津波乗り越えた　「青い目の人形」展示　　陸前高田､あすまで　／岩手県」（岩手全県・1 地方、2017 年 12 月 09 日）。

124　高岡美知子『前掲書』（注 40）、420 頁。

125　赤崎まき子編著『前掲書』（注 27）、105-106 頁。

＜奈良県の「青い目の人形」に関する新聞データベースの情報＞

日付	新聞	見出し	掲載紙
1927 年 4 月 8 日	大阪朝日新聞（大和版）	特に奈良へとの　希望の手紙を抱いてアメリカのお人形さん　豫定よりも廿三人多く來た	
1927 年 3 月 3 日	大阪朝日新聞（大和版）	米國のお人形　先發隊來る　けふから圖書館に陳列	
1927 年 5 月 15 日	大阪朝日新聞（大和版）	アメリカ人形　抽籤で分配　十八、十九兩日間に　小學校や幼稚園へ行く	
1927 年 5 月 24 日	大阪朝日新聞（大和版）	高田の児童らに可愛がられる　青い目のお人形さん	
1927 年 10 月 8 日	大阪朝日新聞（大和版）	ミス・ナラ嬢の　持物は澤山　十一日から送別展　來月十日アメリカへ	
1994 年 6 月 11 日	讀賣新聞	日米の人形交流新時代　黒い目　「ミス奈良」来月里帰り	東京夕刊
1994 年 7 月 1 日	讀賣新聞	日米親善人形“別人”だった　「ミス奈良」着物に和歌山ゆかりの「葵」紋	大阪夕刊
1994 年 10 月 14 日	讀賣新聞	渡米の日本人形が里帰り　６７年目のわが家　千葉の“親族”が傷の手当て	東京夕刊
1994 年 10 月 25 日	讀賣新聞	アメリカ帰り、美形あせず　日本人形「ミス奈良」展が開幕	大阪夕刊
1997 年 12 月 5 日	朝日新聞	「青い目の人形」一堂に展示　戦禍を逃れた４体　大和高田で　／奈良	奈良朝刊
2001 年 1 月 25 日	朝日新聞	青い目の人形通し、戦争学ぶ　御所・葛小学校で講演会　／奈良	奈良朝刊
2001 年 1 月 25 日	讀賣新聞	ＮＩＥ教育に新聞を　奈良新聞社会部長が御所・葛小で講演	大阪朝刊
2001 年 2 月 24 日	朝日新聞	親善の贈り物・答礼人形が「同窓会」ロサンゼルスで展示会／愛知	愛知朝刊
2008 年 6 月 16 日	讀賣新聞	［記者ならでは］平和への思い詰まる人形	大阪朝刊
2008 年 8 月 10 日	朝日新聞	「友情人形だよ」　１９２７年、高田小「入学」　平和願った“米の使者”　／奈良県	奈良朝刊
2011 年 4 月 7 日	朝日新聞	お人形は守られた　９５歳女性が小説出版　「青い目の人形」が主人公　／奈良県	奈良朝刊
2014 年 5 月 12 日	讀賣新聞	青い目の人形　歴史を冊子に　香芝の主婦・鈴木さん	大阪朝刊
2015 年 8 月 20 日		［古都の記憶・戦後７０年］（９）戦争遺跡「発掘」（連載）	大阪朝刊

日付	新聞	見出し	掲載紙
2017 年 8 月 10 日	讀賣新聞	青い目の人形　平和へ思い　米寄贈　９０年　友好の証し　戦時中、隠し保管	大阪朝刊
2018 年 3 月 19 日	朝日新聞	「青い目の人形」、友好の歴史紹介　高田小元校長　／奈良県	奈良朝刊

国際法・平和学ゼミ指導教員より

帝塚山大学法学部　末吉　洋文

本冊子を手に取って頂き、ありがとうございます。『奈良県の戦争遺跡』をまとめた前年度同様、1年間という限られた時間の中ではありましたが、国際法・平和学ゼミの研究活動をまとめた本冊子をまとめることができました。「戦時下における奈良県の人々とその暮らし」というテーマのもと、研究調査を続けてきましたが、結果的に大部なものになってしまったため、先に奈良県に遺された4体の「青い目の人形」に関する研究についてお披露目することとなりました。これから先も上記テーマの下、研究調査を進めて公表する予定ですので、楽しみにお待ち頂ければと存じます。

そもそも「青い目の人形」と出遭ったのは、近鉄奈良駅を南に歩くこと7、8分のところにある「フジケイ堂もちいどの店」という古本屋で武田英子さんの著書『青い目をしたお人形は』を偶然手に取ったことに始まります。これも何か人形からの訴えが私に届いたからなのでしょうか。

今年度は特に新型コロナウイルスの影響もあり、思うような研究調査活動ができなかったという想いに尽きます。戦争関連の報道が少なく、その反面、コロナ禍に関する報道が多くなされる現状ではありますが、国際法・平和学ゼミとしては、戦後75年という節目の年をやり過ごすことはできません。「沈黙は共犯」――5万人以上の性暴力被害者の治療を行い2018年にノーベル平和賞を受賞したコンゴ民主共和国のムクウェゲ医師はこのように言いましたが、沈黙や不作為からは何も生まれません。75年前の戦禍を伝える義務があるのではないか。ゼミ生たちとともに最終成果物の完成を目指して研究調査やゼミでのディスカッションを進め、完璧ではないけれども最後まで最善を尽くすことができたように思います。

本冊子に掲載したように、高田小学校の「青い目の人形」については現在も名前が判明していないままです。名前を見つけることを心掛けながら研究調査を行ってきましたが、この先誰かが発見することもあるでしょうし、分からないまま時間が過ぎていくことにもなるでしょう。いずれにせよ、「青い目の人形」は他の戦争遺跡がそういわれているように「物言わぬ証言者」であることには変わりはありません。あとは現代に生きる私た

ちが「青い目の人形」からどのような暗黙のメッセージを受けることができるかどうかにかかっているのだと思います（その意味では、戦争の記憶に関する「想起文化（論）」の研究対象として「青い目の人形」は大変興味深いと言えます）。

また、これはお願いになるのですが、本冊子を手に取って頂いた方で、戦時中のことをお話しいただける方（「青い目の人形」はもちろんのこと、この先、研究調査結果を発表予定の松根油や学童疎開についてもお願い致します）、あるいはそうした情報をお持ちの方は最後のページにゼミの指導教員である小職のメールアドレスを掲載していますので、ご一報頂ければと存じます。

本冊子をきっかけとして一人でも多くの方が戦争と平和について考えるようになって頂ければと思います。

＜完＞

＜参考文献＞　※出版年順

【本】
永井萠二『見知らぬ人見知らぬ町―ルポルタージュ 国境の町から火の国へ』（太平出版社、1980年）
武田英子『青い目をしたお人形は』（太平出版社、1981 年）
Sandra C. Taylor, *Advocate of understanding : Sidney Gulick and the search for peace with Japan*, Kent State University Press, 1984
武田英子『青い目の人形　写真資料集』（山口書店、1985 年）
土屋喬雄『渋沢栄一　新装版』（吉川弘文館、1989 年）
教科研授業づくり部会編・森脇健夫・他『戦争を考える授業　青い目の人形物語』（学事出版株式会社、1990 年）
奈良教育大学創立百周年記念会百年史部編『奈良教育大学史 : 百年の歩み』（奈良教育大学創立百周年記念会、1990 年）
『目で見る奈良市の 100 年 : 奈良市・添上郡月ケ瀬村』（郷土出版社、1993 年）
菊地昭男『青い目の人形 アメリカ―秋田友好親善記 (あきたさきがけブック―国際交流シリーズ (No.9))』（秋田魁新報社、1994 年)
赤崎まき子編著『人形たちの愛は海をこえて：よみがえる青い目の人形と答礼人形』（エイ・ワークス、1996 年）
シドニー・ルーイス・ギューリック 3 世講演 ; 麻生由紀 [ほか] 翻訳『Doll messengers of friendship : 友情の人形 / シドニー・ルーイス・ギューリック 3 世講演』（ギューリック 3 世を招く会、1997 年）
Sidney Gulick, *Dolls of Friendship : the story of a goodwill project between the children of America and Japan 2nd ed*, Friendship Ambassadors, Incorporated, 1997
大谷まこと『シリーズ福祉に生きる　渋沢栄一』（大空社、1998 年）
歴史教育者協議会（編）『世界と出会う日本の歴史〈5〉アメリカからきた青い目の人形―第 1 次・第 2 次世界大戦』（ほるぷ出版、1999 年）
渋沢研究会編『公益の追求者・渋沢栄一 : 新時代の創造』（山川出版社、1999 年）
渋沢研究会編『公益の追求者・渋沢栄一 : 新時代の創造』（山川出版社、1999 年）
下川耿史（編）『近代子ども史年表　昭和・平成編』（河出書房新社、2002 年）
松永照正『あやと青い目の人形―ナガサキで被爆した少女の物語』（クリエイティブ 21、2003 年）
高岡美知子『人形大使―もうひとつの日米現代史』（日経 BP 出版センター、2004 年）
夏目勝弘『青い目の人形物語』（成工社、2008 年）
是澤博昭『青い目の人形と近代日本―渋沢栄一と L. ギューリックの夢の行方』（世織書房、2010 年）
辻内千重子『人形のひとり云（ごと）―ママほんとうに御免（ごめん）なさい』（賀名生の里歴史民俗資料館、2011 年）
鹿島茂『渋沢栄一 下 論語篇 (文春文庫)』（文藝春秋、2013 年）
鈴木知英子『「青い目の人形」の声が聞こえる』（2014 年）
シャーリー パレントー『青い目の人形物語 (1) 平和への願い　アメリカ編』（岩崎書店、2015 年）

創立 100 周年記念誌編纂委員会（編）『帝塚山学院 100 年史』（帝塚山学院、2016 年）
見城悌治（編）『帰一教会の挑戦と渋沢栄一　―グローバル時代の「普遍」をめざして―』（ミネルヴァ書房、2018 年）
宮崎広和・是澤博昭・井上潤 (編)『平和を生きる日米人形交流』（世織書房、2019 年）
木村昌人『渋沢栄一 : 日本のインフラを創った民間経済の巨人（ちくま新書）』（筑摩書房、2020 年）
星野義二『世界の平和は子どもから』（言視舎、2020 年）
白石喜太郎『渋沢栄一 92 年の生涯 冬の巻』（国書刊行会、2021 年）

【論文・雑誌】
「アメリカからの人形が齎らした書信とその禮状」『わかくさ』第 19 号（昭和 2 年 8 月）https://www.nara-edu.ac.jp/ARCHIVE/WAKAKUSA/w19a03.htm（最終アクセス日時：2021 年 7 月 6 日）
山田太一「青い目をした人形大使―知られざる移民哀史」、『歴史への招待　25』（日本放送出版協会、1983 年）所収
小林恵「海を渡った人形大使」、『歴史への招待　25』（日本放送出版協会、1983 年）所収
Kohiyama Rui, "To Clear Up a Cloud Hanging on the Pacific Ocean: The 1927 Japan-U.S. Doll Exchange", *The Japanese journal of American studies*, vol. 16 (2005).
David B. Hartley and Katherine C. Hartley, “The 1927 American-Japanese Friendship Doll Exchange and the Dream of International Peace”, *South Dakota History*, Vol. 36, No. 1（2006）.
吉武信彦「ノーベル賞の国際政治学―ノーベル平和賞と日本：第二次世界大戦前の日本人候補―」『地域政策研究』（高崎経済大学地域政策学会）　第 113 巻　第 2・3 合併号（2010 年 11 月）

【新聞記事】
大阪朝日新聞（大和版）「米國のお人形　先發隊來る　けふから圖書館に陳列」（1927 年 3 月 3 日）
大阪朝日新聞（大和版）「可愛い人形　陳列會始まる　児童たちで大入満員」（1927 年 3 月 4 日）
大阪朝日新聞（大和版）「お人形展　けふ限り」（1927 年 3 月 5 日）
大阪朝日新聞（大和版）「特に奈良へとの　希望の手紙を抱いて　アメリカのお人形さん　豫定よりも廿三人多く來た」（1927 年 4 月 8 日）
大阪朝日新聞（大和版）「アメリカ人形　抽籤で分配　十八、十九両日間に　小學校や幼稚園へ行く」（1927 年 5 月 15 日）
大阪朝日新聞（大和版）「高田の児童らに可愛がられる　青い目のお人形さん」（1927 年 5 月 24 日）
大阪朝日新聞（大和版）「ミス・ナラ嬢の　持物は澤山　十一日から送別展　來月十日アメリカへ」（1927 年 10 月 8 日）
“DOLL AMBASSADORS OF GOODWILL VISIT HONOLULU”, *The Palisade Tribune*, Volume 25, Number 34, January 20, 1928.
讀賣新聞「日米の人形交流新時代　黒い目　「ミス奈良」来月里帰り」（東京、1994 年 6 月 11 日）
讀賣新聞「日米親善人形 “ 別人 ” だった　『ミス奈良』着物に和歌山ゆかりの『葵』紋」（大阪、1994 年 7 月 1 日）
讀賣新聞「渡米の日本人形が里帰り　67 年目のわが家　千葉の “ 親族 ” が傷の手当て」（1994 年 10 月 14 日）

讀賣新聞「アメリカ帰り、美形あせず　日本人形『ミス奈良』展が開幕」（大阪、1994 年 10 月 25 日）
朝日新聞「『青い目の人形』一堂に展示　戦禍を逃れた４体　大和高田で」（1997 年 12 月 05 日）
讀賣新聞「ＮＩＥ教育に新聞を　奈良新聞社会部長が御所・葛小で講演」（大阪、2001 年 1 月 25 日）
朝日新聞「ニッポン　人・脈・記　拝啓　渋沢栄一様⊠　人形大使の心たどる旅　１円募金来るわ来るわ」（2007 年 2 月 27 日）
朝日新聞「湯沢で新たに１体確認　実家の「青い目の人形」鑑定　福島在住・遠藤さん　／秋田県」（秋田全県・２地方、2008 年 3 月 8 日）
朝日新聞「『青い目』何を見たの　戦意高めるため釜へ　かくまわれ里帰り　豊川の元教師が本に」（名古屋、2008 年 12 月 9 日）
朝日新聞「お人形は守られた　９５歳女性が小説出版　『青い目の人形』が主人公」（2011 年 04 月 07 日）
讀賣新聞「青い目の人形　歴史を冊子に　香芝の主婦・鈴木さん」（大阪、2014 年 5 月 12 日）
讀賣新聞「『ミス愛知』見つかる　８７年前渡米『平和の人形』」（中部、2014 年 8 月 7 日）
讀賣新聞「『青い目』『市松』88 年前に贈り合い　海越える親善人形　再び　米宣教師と渋沢栄一が尽力　子孫きょう面会」（東京、2015 年 5 月 30 日）
讀賣新聞「日米友好　証しの人形　８８年前に交換　子孫が初対面」（東京、2015 年 5 月 31 日）
朝日新聞「青い目の人形守った証し　戦前・戦中に思いはせ紙芝居　館山の松苗さん上演　／千葉県」（千葉全県・２地方、2015 年 8 月 11 日）
讀賣新聞「［古都の記憶・戦後７０年］（９）戦争遺跡『発掘』」（大阪、2015 年 8 月 20 日）
朝日新聞「中大生、戦争の記憶を映像化　２作品、コンテスト高評価　／東京都」（多摩・１地方、2015 年 11 月 15 日）
讀賣新聞「青い目の人形　平和へ思い　米寄贈９０年　友好の証し　戦時中、隠し保管」（大阪、2017 年 8 月 10 日）
朝日新聞「人形に託した９０年前の日米親善　郷土史家・井上さん研究　／山口県」（山口・１地方、2017 年 8 月 16 日）
朝日新聞「戦争・津波乗り越えた 「青い目の人形」展示　　陸前高田、あすまで　／岩手県」（岩手全県・１地方、2017 年 12 月 09 日）
朝日新聞「『青い目の人形』、友好の歴史紹介　高田小元校長」（2018 年 3 月 19 日）。
朝日新聞「青い目の人形寄贈、祖父の志継ぎ２０年　米の夫妻、小学校訪問　深谷　／埼玉県」（埼玉・１地方、2019 年 5 月 28 日）
讀賣新聞「『平和の象徴』米から人形　長崎の児童に」（西部夕刊、2019 年 8 月 7 日）
朝日新聞「奈良）県内の戦争遺跡知って　帝塚山大が冊子公開」（2020 年 8 月 11 日）
奈良新聞「県内にも残る「戦禍」の爪痕 - 帝塚山大生が調査　報告書を一般公開」（2020 年 8 月 13 日）
讀賣新聞「戦争遺跡　帝塚山大生ら調査　県内 10 か所　HP で紹介」（2020 年 8 月 18 日）
産経新聞「県内の戦争遺跡を調査　帝塚山大生の報告書公開」（2020 年 9 月 17 日）
朝日新聞「渋沢の国際交流、人形が光　県立歴史と民俗の博物館で特別展　／埼玉県」（埼玉首都圏・１地方、2021 年 3 月 31 日）

【その他（展示会図録や自治体広報誌など）】
・「広報誌やまとたかだ」（平成 20 年 6 月）
https://www.city.yamatotakada.nara.jp/city/rekishi/docs/aoimedoll.pdf
・「広報　うだ」第 104 号（2014 年 8 月）。
https://www.city.uda.nara.jp/kouhoujouhou/shisei/kouhou/kouhou/2014/documents/2608zen.pdf ＞
・埼玉県立歴史と民俗の博物館編『NHK 大河ドラマ特別展　青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～』（埼玉県立歴史と民俗の博物館編、2021 年）
・埼玉県平和資料館編『令和 2 年度テーマ展図録　渋沢栄一と平和　～青い目の人形とその時代～』（埼玉県平和資料館、2021 年）

【インターネット】
・オレゴン大学の敷地内にあるジョーダン・シュニッツァー美術館（Jordan Schnitzer Museum of Art）のマレー・ウォーナー東洋美術コレクション
https://jsma.uoregon.edu/sites/jsma2.uoregon.edu/files/JSMA%20Japanese_0.pdf
・デジタル版『渋沢栄一伝記資料』
https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryo/digital/main/
・Friendship Dolls 研究家の Bill Gordon 氏と「青い目の人形」に関する HP
http://www.bill-gordon.net/dolls/index.htm
・ノーベル平和賞選考委員会 HP
https://www.nobelprize.org/nomination/archive/show_people.php?id=8496
・田峯小学校「青い目の人形・子供歌舞伎の小学校です」
http://www.kitashitara.jp/damine-el/2011/11/post-4.html

＜編集後記＞

最後になりましたが、本成果物の作成に際しては、帝塚山大学同窓会からの第５回学生チャレンジ制度に採択され、資金援助を頂きました。素晴らしい制度にゼミ生共々、心より感謝申し上げます。また、資料取集に関しては、帝塚山大学図書館をはじめ、奈良県立図書情報館、生駒市図書館、そして香芝市図書館などから数多くの関連資料をお借りし、参照させて頂きました。図録を送って頂いた埼玉県平和資料館、埼玉県立歴史と民俗の博物館にも感謝申し上げます。また、実際に戦争を体験された方々の体験記からも一部を引用させて頂きました。

「青い目の人形」の研究家として比類なき情報量の HP を開設し、現代における平和の促進に貢献しているビル・ゴードン（Bill Gordon）氏からは、HP に使用されている写真の使用を許諾いただくとともに、今回のゼミで取り組んでいるプロジェクトの成功を祈る（“I wish you and your students success in the seminar.”）との励ましのメッセージを頂きました。

また、オレゴン大学の Jordan Schnitzer Museum of Art に務める写真家の Jonathan Smith 氏からはミス福岡の写真使用の許可を頂く過程でご高配頂きました。

「青い目の人形」を研究するならば避けて通れないのが第一人者である武田英子 (えいこ) 氏の『青い目の人形―写真資料集』（山口書店、1985 年）をはじめとする一連の著作です。詳細な内容に圧倒されましたが、貴重な研究成果に教えられることが多々ありました。

また、高岡美知子元・武庫川女子大学教授の労作『人形大使―もうひとつの日米現代史』からも多くのことを学ばせて頂きましたが、高岡先生が奈良女子大学で学生時代を過ごされていたことや、小職と兵庫県神戸市垂水区の同郷であるという偶然にも驚かされました。

埼玉県深谷市の渋沢栄一政策推進課からは渋沢栄一氏の肖像写真の使用許諾をお認め頂き、また、公益財団法人渋沢栄一記念財団が運営する渋沢資料館からは「青い目の人形」を両脇に抱えた貴重な渋沢栄一氏の写真の使用を承認して頂きました。また、埼玉県東松山市の「県平和資料館」からは「渋沢栄一と平和」の展示図録をお送り頂きました。本プロジェクト

の主旨にご賛同ならびにご声援頂き、ここに感謝申し上げます。

なお、「青い目の人形」などの写真撮影のために奈良県内各所を訪問させて頂いた際には、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、短時間の滞在および撮影とさせて頂きました。

この場を借りて関係の皆様に心より御礼申し上げます。

2021 年 7 月

帝塚山大学法学部　末吉　洋文

冊子名：『奈良県に遺された 4 体の「青い目の人形」―渋沢栄一とギューリック博士が試みた日米親善―』（非売品）
発行：帝塚山大学法学部　国際法・平和学ゼミ
指導教員：末吉　洋文（法学部教授）

お問い合わせ先：　e-mail：sueyoshi@tezukayama-u.ac.jp
2021 年 7 月作成

© 帝塚山大学国際法・平和学ゼミ（指導教員：末吉　洋文）